

1. 件名：「泊発電所3号炉の地震等に係る新規規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（182）」

2. 日時：令和6年2月21日（水） 16時00分～18時55分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者

原子力規制庁：名倉安全規制調整官、佐口上席安全審査官、谷主任安全審査官、鈴木安全審査専門職、山崎安全審査専門職、道口主任技術研究調査官、山下技術研究調査官、松末技術参与

北海道電力株式会社：松村執行役員 他11名

三菱重工業株式会社 2名

（このうち3名はテレビ会議システムによる出席）

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

〈〈本年2月15日に受取済み〉〉

- ・ 泊発電所3号炉 基準津波に関するコメント回答（資料1）
- ・ 泊発電所3号炉 津波評価について（資料2）
- ・ 泊発電所3号炉 津波評価について（補足説明資料）（資料3）

時間	自動文字起こし結果
0:00:20	規制庁谷です。それではヒアリングを始めたいと思います。
0:00:24	今日のヒアリングの案件としては泊発電所 3 号炉基準津波に関わるに関するコメント回答ということで資料が 3 点ほど、2 月 15 日の日付で出ているものを使って、ヒアリングを行います。
0:00:38	まず資料の方、
0:00:40	前回のヒアリングから変更点を主体に、簡潔に説明していく。
0:00:46	お願いします。
0:00:49	はい。北海道電力の松村です本日のヒアリングよろしくお願いいたします。
0:00:54	津波、基準津波に関するコメント回答ということで、
0:01:02	まず津波堆積物の評価結果、それから、
0:01:06	組み合わせ評価の評価結果の論理構成のところ、それから雑入コウトンネルとアクセスルートトンネルの基準津波の影響検討。
0:01:18	これらについて、変更点を中心にご説明させていただきます。説明はアオキからで、20 分程度を予定してございますよろしくお願いいたします。
0:01:29	北海道電力の青木です。
0:01:31	藤。
0:01:32	前回、1 月 31 日に 1 回目のヒアリングさせていただきましてそこから修正しております。その修正内容を中心に簡潔に説明させていただきたいと思います。
0:01:42	今回資料 1 から 3 の 3 点ございますが、資料 1 を用いてご説明させていただきます。
0:01:49	早速資料 1 のページをめくっていただいて 2 ページ目をお願いいたします。
0:01:56	2 ページ目の右したのところにですね、備考と記載しておりましてこのうち 1 ポチ目を追記しております。内容としましては、残されている審査上の論点の No.9、
0:02:08	等堆積物に関するところについては、今回、津波痕跡高さ等については今回説明対象としておりますが、基準津波の遡上高さとは痕跡高さの比較結果については今後説明するということであらう一部回答がわかるというような記載に変更してございます。
0:02:27	続いて 3 ページ変更特にございません。
0:02:31	4 ページ 5 ページ、修正してございますが、こちらについては概要をまとめたもので、後段の中で説明させていただきます。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:39	6 ページをお願いいたします。
0:02:43	変更箇所としましては、右上にフロー図、黄色ハッチングをつけたフロー図でございますがその下のところに※書きで注釈のつい記載を追記しております。
0:02:55	藤地震に伴う津波についても、最新の知見を継続的に調査した上で、既往の津波評価に影響がないことを確認しているといった旨を追記させていただきました。
0:03:05	こちらについて今回黄色のハッチングの既往津波の検討地震以外のように伴う津波、行政機関による津波評価っていうところを中心に説明させていただいておりますが、地震津波についても問題がないということを確認してるといふ旨を、
0:03:18	清木した次第になっております。
0:03:20	続きまして、7 ページをお願いいたします。
0:03:27	7 ページでは 2 章の文献調査に関するところの結果をまとめたものを表になっております。
0:03:33	この次表のうち左から、
0:03:36	T2 列目になるんですが、項目の隣に過去に説明した審査会合時期というものを追記してございます。
0:03:44	当既往津波だったり地震以外の津波だったりその項目ごとに過去の審査会合日が異なるというところで、これらがわかるような形で表形式にまとめさせていただきました。
0:03:55	具体的には平成 26 年の 12 月 5 日であったり、27 年 5 月 15、27 年の 8 月 21 日の三つの会合で説明した内容が項目ごとに異なっている時期になっております。
0:04:10	続きまして、9 ページをお願いいたします。
0:04:15	ところから概要のうち 3 社の組み合わせ評価の論理構成に関わるところになっております。
0:04:21	こちらの修正点については修正箇所だけの説明だと、流れがわかりづらいというところは流れとして通しで説明させていただきます。
0:04:31	あと論理構成としては、二つある箱書きのうち下の箱箱書きの方をお願いいたします。
0:04:37	水位上昇側水位下降側の論理構成、具体的な評価方針についてまとめております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:43	上昇側につきましては一つ目の矢羽根で、組み合わせ評価の水位上昇側では、敷地に対して大きな影響を及ぼさ減として、水位上昇量が最大となる波源を選定いたします。
0:04:55	泊発電所の波源の特徴を踏まえまして、地震に伴う津波の波源の東西方向位置の変動を考慮することで敷地に津波が到達する時間が大きく変化し、
0:05:05	地震に伴う津波の第1%、第2版のピークと川白の第一波が重ね組み合わせ評価の水位が高くなります。こういった理由から、川白のピークと重なる地震に伴う津波の断層パラメータを網羅的に検討して特定する。
0:05:19	の組み合わせ評価を実施しております。
0:05:23	なおピークは重ならなくとも、地震津波のうち水位が高い波源であれば、組み合わせ評価の水位が高くなる可能性がある、というところを踏まえましてBの組み合わせ評価を実施しております。
0:05:35	組み合わせ評価Aにて、陸上地すべり河島のピークと重なる日本海島縁部の波源の位置断層パターン水に依拠する断層パラメータを網羅的に検討して特定した上で、
0:05:47	水圧評価Bを含めた全体の組み合わせ評価により上昇側の水位を評価することで、敷地に対して大きな影響を及ぼす波源を選定すると、こういった方針にさせていただきます。
0:05:59	続きまして水位の下降側となります。
0:06:02	と下降側につきましては蝶理セキを下回る時間が最大となる波源を選定していきます。
0:06:07	これ組み合わせ評価において考慮する対象波源につきましては、地震に伴う津波の貯留堰を下回る時間の最大ケース。
0:06:15	これに加えて泊発電所の波源の特徴、具体的には、生変動量が大きい波源は振幅が大きいことから、下回る時間が長い傾向があると。こういったことを踏まえまして、地震に伴う津波の水位変動量が大きい波源も、
0:06:29	検討対象波源としております。
0:06:32	これらの検討対象波源を用いた組み合わせ評価により、地震に伴う津波の上昇側の2羽と4羽の間の引き波時、
0:06:40	当組み合わせ評価において水位時刻歴は系の着目する時間田井において、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:06:44	地震津波の下降側の波と川白の加古川の波が組み合わせ後の時間に対する影響が大きくなるように重なり合ひまして、組み合わせ前よりも長くなるような波源として敷地に対して大きな影響を及ぼす波源を選定すると。
0:06:58	いう方針にしております。
0:07:01	これらの方針に則ったものとして 10 ページ 11 ページのフローを作成しております。
0:07:08	前回のものですと、上昇と下降まとめたもので一つのフローにしておりますが、前回のヒアリングを踏まえまして、10 ページでは水位上昇側、11 ページだか、水位下降側と利益を下回る時間でまとめております。
0:07:22	まず 10 ページの方をお願いいたします。
0:07:26	フローの最初には評価方針行きて、組み合わせ対象の選定というところで、
0:07:31	日本海島縁部とかは白尾組み合わせると、その中の評価方針というところで、波源の特徴を①から③というところでまとめております。
0:07:41	内容自体は前回ヒアリングと同様でしてこの①から③の特徴を踏まえた上で、評価の方針として
0:07:49	衛藤。
0:07:50	さっきの 9 ページで説明したような方針があつてそこから、
0:07:54	上昇側としてはAの組み合わせ評価Bの組み合わせ評価に移りまして、敷地に対して大きな影響を及ぼす波源を選定していくと、そういったフローにしております。
0:08:05	続きまして 11 ページの加古川になります。
0:08:08	こちらも上昇側と同じようなまとめ方になっておりまして、まず評価方針のところ、波源の特徴というところで加古川の特徴をまとめております。内容は④から⑥の三つでまとめております。
0:08:22	そこから先に説明した方針と同様に、加古川の評価方針をまとめまして、
0:08:27	加古川の観点で言いますと、検討対象波源①と検討対象波源②の組み合わせ評価。
0:08:34	を実施しまして、敷地に対して大きな影響を及ぼす波源というようなフローでまとめております。
0:08:40	論理構成の概要というところで、方針とフローを説明したところになっていきます。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:08:47	続きまして、12 ページ以降から、茶津トンネルの評価のパートに入っていきます。
0:08:53	その 12 ページは特に変更点がございませんので、13 ページからお願いいたします。
0:09:00	あと 13 ページ、箱書きの下に検討フローを記載してございますこの検討フローの上側のところを今回追加したのになっております。
0:09:09	とフローの見方としては大きく左側から敷地に対して大きな影響を再現による評価で右側が影響確認波源による評価というふうに分けております。
0:09:19	そのうち左側の敷地に対して大きな影響を及ぼす波源については前回説明した 10 月 20 日の会合で説明したのになっておりまして、
0:09:28	やってる内容としましてはピークが重なる波源の特定、ピークの水位が高くなる波源の選定組み合わせ評価というところを実際実施しております。
0:09:38	影響確認波源の評価の方では、これらの、
0:09:42	結果を踏まえまして、前回の 10 月 20 日に使った組み合わせ評価を踏まえまして、まず水位上昇メカニズムの分析ということで、既往の解析結果を用いて茶津 2 個トンネルアクセスルートトンネルに対して影響の大きい津波の組み合わせを、
0:09:57	選定するというところを実施しております。
0:10:00	少し結果入っておりますがその結果、川白の一派と地震津波の 1% っていうものが、茶津トンネルアクセスルートトンネルに影響が大きいというところでこの一発一般を対象に後段の 4 章の(3)(4)の P 笠野は下の特定、
0:10:16	ピークの水位が高くなる波源の選定組み合わせ評価というものをやっております。
0:10:21	組み合わせ評価のところについては、前回の 10 月 20 日の会合のものと同じような流れでやっておりますのでそこから、
0:10:28	最大径制による流入の可能性類の有無っていうものを確認していくという流れにしております。
0:10:37	続きまして 14 ページをお願いいたします。
0:10:44	まず、上段のテキストボックスの二つの矢羽根の記載になっております。こちら、トンネルの坑口に対して、圧損値でアクセスルートトンネルの水位が低いというような記載にしております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:10:57	こちら前回のヒアリングですと、低いではなくて衛藤氏に対し裕度があるといった表現で、
0:11:04	ややその主観的な内容が入っておりましたので簡潔に、水位が高い低いといった、
0:11:11	定量的な評価がわかるような記載に変更いたしました。
0:11:15	当間た右下のところで、分布図で記載しております。
0:11:20	その中で前回の資料ですと、トンネルの坑口位置の水を使っておりましたが資料全体でちゃんとトンネルに対して評価する数字が同じになるようにという観点で、
0:11:31	この赤枠で囲った影響確認地点という範囲の中の一番大きくなるような数字を使って、分布図等を記載しております。
0:11:42	これらの数字を用いまして、結論が一番下の 14 ページの下段に書いておまして、
0:11:48	トンネルの坑口標高に対して津波の水位が低くて津波が流入しないということを確認したという結論でまとめております。
0:11:58	以降 15 ページ以降チャープの評価に対して大きな修正ございませんので、
0:12:03	1 ページが大きく飛びまして、
0:12:06	32 ページの、
0:12:09	2 章の各論のところで、変更点を説明させていただきます。
0:12:20	あと 32 ページからは、2 章になりまして、文献調査の反映結果に関する章になっております。
0:12:28	変更点というところで、上段のテキストボックスですが、
0:12:34	のうち、一番、
0:12:37	一番下の三つ目の丸になりますとまず、新たな知見を反映したことで変更した箇所っていうものを志垣にへ記載しております。
0:12:47	朱書きのところがデータとして更新されておりますが、これまで説明した過去の説明内容から最終的な検討結果には変更がないというところについての記載に変更 1、
0:12:59	前回ヒアリングから修正したところになっております。
0:13:03	シュウガキ部の更新した箇所っていうところが、下のフロー図で書いておまして、①の既往津波の文献調査で言いますと、北海道から本州に来襲した既往津波っていうところのデータを更新したと。
0:13:17	②の痕跡高っていうところはこのデータを更新したということがわかるような記載にしております。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:13:23	でもこちらわかりやすさの観点から修正したというところになっておりまして、
0:13:28	説明してる内容について大きな変更はございません。
0:13:33	続いての修正箇所というところで 34 ページをお願いいたします。
0:13:43	藤さん 14 ページでは、文献調査の①の既往津波の文献調査に関わる ところになっておりまして、上段のテキストボックスっていう内容を大分、
0:13:54	簡潔に記載したというところになっております。まず既往津波についてス テップ 1、2 の通り文献調査を実施し、しております。その結果、新たな 知見があるかないかというところをまず明示しまして、
0:14:07	この①の結果ですと、既往津波の文献調査の結果ですと宇佐美ほかと いうものが新たな知見としてありますと。
0:14:14	そこから反映した内容というところをチェックマーク二つで書いておりま して、既往津波の事例を追加したというところと、あと追加データを更新 しても、最終的な結論というところに変更はなかった。
0:14:27	というところが、記載を変更してございます。
0:14:32	また、データ更新した場所っていうところが、その 34 ページ、次の 35 ペ ージ 36 ページのこの表を更新したと、というようなところがわかるように 修正したところになっております。
0:14:46	以降、同じようなフォーマットで 38 ページ以降、修正してございまして、
0:14:51	詳細な説明については割愛させていただきます。
0:14:55	続きまして 42 ページお願いいたします。
0:15:04	こちらは津波堆積物について取りまとめた表になっておりまして前回の ヒアリングの議論の中で、右下のところで書いておりますが、津波堆積 物の標高に加えて津波堆積物の層厚についても、
0:15:19	同ソ、下段の方で書くように修正いたしました。
0:15:26	続きまして 43 ページのグラフですね。
0:15:30	と痕跡高のグラフのところは 42 ページのデータを使ったものが 43 ペ ージのグラフに表したもっていうところで、
0:15:37	そういうのが対比できるような形でわかりやすく修正したというところ になっております。
0:15:45	続きまして、48 ページお願いいたします。
0:15:55	ここからは火山の山体崩壊に伴う津波に関する、知見の反映結果にな っております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:16:02	ここを修正してございまして、前回のものと新たな知見のありなしでいいますとなしという評価にしておりました。
0:16:10	そこから前回のヒアリングからの修正点というところで、西区西来ほか編 2012 という知見を追記してございます。
0:16:18	こちら追加した理由としましては、火山影響評価のヒアリング火山影響評価の審査資料を踏まえまして、
0:16:27	資料の整合性の観点から追加したというところになっております。
0:16:31	こちらの要旨としては、発電所の敷地から半径 160 キロメートル以内にある第 4 紀火山のうち、日本海に分布している海域火山というところで、
0:16:42	具体的にはと後志改ざんの西来ほか編に伴い、後志階段のところを追加したというところになっております。こちらの後志海田については、
0:16:54	発電所への影響がないというところになりますので最終的な結論には変更がなかったというところにしております。
0:17:03	続きまして 49 ページお願いいたします。
0:17:09	こちら海底地すべりに伴う津波の
0:17:12	文献の反映結果になってございまして、修正箇所としましては、
0:17:16	富井左側に青色のテキストボックスで書いてございまして、そのうち三つ並んでいるうちの真ん中のところになっております。
0:17:25	その中の矢羽根で書いてございまして、まず、
0:17:29	文献の抽出した結果というところで、森木ほか 2017 とC井原ほか 2022 等に関する
0:17:36	等、調査結果を書いております文献調査の結果を書いております。
0:17:40	森木ほかでは、日本海島縁部における地すべり地形を示しているものの、泊発電所の敷地周辺海域においては規模の大きな海底地すべり地形というものがなかったと。
0:17:51	いうところでこちらは、
0:17:53	影響を及ぼす危険ではないというふうに判定しております。
0:17:57	また嶋原ほか 2022 等については、森木ほかを引用しまして津波波源の振幅をWattsの経験式に基づく計算で、
0:18:06	IT地すべりに伴う津波の規模推定を行っているものですが、対象とする具体的な地すべり地形、その他の計算条件等の事件は記述されておりますので、こちらについては継続して、
0:18:19	注視していくというようなところを記載しております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:18:22	その結果最終的な結論としてはステップ 2 としては、新たな知見がなかったというところでまとめております。
0:18:29	これら具体的な、
0:18:31	当資料については資料 3 の方で飛ばしておりまして、ここでの説明は割愛させていただいております。
0:18:39	以降は、基本的にはわかりやすさの観点で修正したというところで、2 章の説明はここまでになっておりまして、
0:18:50	続いて 64 ページ以降で、3 章の組み合わせとかの論理構成になっております。
0:18:59	こちらについては最初の概要で説明した内容等どう、同じような修正を、資料全体に反映したというところになりますので、ここでの説明は割愛させていただきます。
0:19:11	続いて 78 ページ以降、4 章の茶津トンネルの評価になっていきます。
0:19:25	こちら大きな修正点の説明というところで全体の大きな流れは変わっておりませんで変更した箇所というところで、85 ページをお願いいたします。
0:19:41	と 85 ページは前回のヒアリングを踏まえまして影響確認地点の設定の仕方というところをわかりやすく修正したというところになっております。
0:19:50	藤。
0:19:51	上段の箱書きになりますが、影響確認地点については、下記の①影響確認試験範囲の最大水位を用いた場合の評価と、
0:19:59	②トンネル坑口位置の水を用いた場合の評価、これ①と②の二つの評価を整理した上で、定量的な根拠に基づく波源の選定を行うために、①というところで、範囲の、
0:20:13	最大値を使うというふうに、影響確認視点を設定しております。
0:20:18	①の考え方という、先に②の方から説明させていただきますが、
0:20:24	まずトンネル坑口からぼ構内へ津波が流入するかどうかというところについては、トンネル坑口の位置の標高と、その位置の水位を比較することで確認ができると考えております。
0:20:36	ですから一方、このトンネル坑口の位置に津波が遡上しないような波源につきましては、このトンネル坑口の水位が算出できないため、定量的な根拠、具体的な数字に基づいて、
0:20:47	厳しい波源というものの選定が難しいということにと考えております。
0:20:52	そこで①の範囲の評価というところで、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:20:56	影響確認地点をトンネル攻撃を含む範囲として設定することで、この範囲については津波が遡上するため、
0:21:04	数字として津波の水位が算出できます。そこから、厳しい波源を選んでいくという観点から定量的な根拠に基づいて波源を選定するために、
0:21:13	坑口の位置ではなくて範囲というところを用いて設定すると、いうことを考えております。
0:21:19	また、江藤こちら範囲とする根拠、1点ではなくて範囲とするということで、範囲を広くすることで、数字として保守的な評価になるというところを※書きで書いております。
0:21:33	藤コウノ茶津の評価については、
0:21:36	大きな変更点ございません。
0:21:39	以上をもちまして今回の資料全体の変更箇所の説明というところは以上とさせていただきます。
0:21:50	はい谷です説明ありがとうございましたじゃ確認に入っていきたいと思えます。
0:21:56	ちょっと僕ね、資料を見てて、
0:22:00	まず、資料の構成の方から確認するんですけど、資料1っていうのがあって、これコメント回答ですよっていうのが、
0:22:08	ありますんで、
0:22:11	資料2っていうのがあってこれはあれですかね資料2っていうのはまとめ資料のうち、
0:22:17	関連するところのイメージ、この今回のコメント回答を踏まえて、こうなりますよってイメージで書いてんすかね。
0:22:28	クドウ電力のアオキですとその通りの認識でして資料についてはまとめ資料でそのうち関連する項目というところで、既往津波地震以外の要因組み合わせっていうところを、あと行政機関のところをまとめたものになっております。
0:22:42	以上です。だから基本的にはあれですか資料1の方が、内容としては詳しく書いてて、
0:22:49	資料2っていうのはその中でも必要な、
0:22:52	ものが残っている本筋に関連するようなものが残ってると。
0:22:57	当北海道電力のアオキですとそのような認識です。もう少し補足させていただきますと資料1の方では、過去の説明したか、審査経緯とかであったり、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:23:07	コメントを踏まえてこういうところが該当になりますと、そういったところを明示化したようなものになっておりまして内容としては、同じことを記載していると考えております。以上です。
0:23:18	何かねえ、資料を読んで、資料 1 にはあるけど、にない、或いはここにニワあるけど市にないっていうのの関係がね、あんまりわかりにくくて。でもそういうコウ目で、
0:23:31	ちょっと確認しますでちなみに会合になったら、どんな感じになるんですかこれ、資料 1 の方を。
0:23:39	熱く説明するんですか。
0:23:43	井戸電力の青木です。主に説明する対象については資料 1 を用いて説明することを考えております。
0:23:52	その場合にね、
0:23:54	資料 1、
0:23:57	資料 1 って言いましたね資料 1 を使って説明、後、
0:24:01	その場合に、何か、
0:24:04	資料 1 の 2 ページにある、
0:24:07	通しナンバー 9 番だとか 7 番だとか 7'。
0:24:11	全部これはコウ結果も含めてこの資料 1 で説明し切るんですか、結果っていうのはね、最終的な。
0:24:19	全体の結果、
0:24:22	資料 2 に書いてあるようなことは、全部ここに入ってる。
0:24:28	当北海道電力の青木ですと基本的には資料 1 の中で、説明が完結するように、資料 2 で大事な結果っていうところは資料 1 の方にも書いてあるというふうに考えております。以上です。
0:24:42	何かちょっと私そんな気がしていないんだけど
0:24:47	後で個別で確認していったりしましょうかねその辺は、
0:24:52	会合で、とにかく資料 1 をベースに、
0:24:57	説明することによって、この文献調査の部分はこうなります。最終的に、
0:25:04	関係するところを説明し切るということで、
0:25:07	はい、状況わかりました。
0:25:11	続いてなんですけど、多分ねこれ。
0:25:16	通しナンバー 9 のう。
0:25:18	津波堆積物だとかの話から始める等、
0:25:23	時間が、多分細かい話までこれどうしても入ってしまうので、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:25:30	資料 1 の 3 章 4 章っていうのを順番に、先に確認していこうかなと思います。
0:25:38	まず
0:25:40	3 章の、
0:25:41	組み合わせの評価結果なんだけれども、
0:25:44	これでまず最初に、
0:25:49	言いたいのは、これって、
0:25:52	コメント回答になっていますかっていうところなんですけど 65 ページが、
0:25:59	コメント。
0:26:01	指摘事項と、それに対する回答概要ということで書いてるんですけども、
0:26:10	これね。
0:26:12	これ。
0:26:13	指摘事項っていうのは基本的には、下降側の会合のときに言ったことですよ。組み合わせ評価で考慮する波源選定の妥当性に係る説明については、
0:26:28	この会合で、
0:26:30	この会合ですよ。この会合で事実確認を行った内容。
0:26:35	について、論理構成を明確にして、まとめ資料に十分に反映させた上で説明することっていうことなんですけど、この妥当性に関わる説明が、
0:26:45	要するに前回の会合では、何をもって妥当だっているのかが、
0:26:51	資料、資料のコード、どこにもちゃんと書かれていないような感じだったんですよ。いや、書かれているんだけど、コウダからコウっていうのがわからないような、
0:27:03	説明だったんですよ。それに対して会合で、給油北電のおっしゃりたいことはこういうことなんでしょうかと、結構丁寧に、
0:27:12	やった上で、その辺のことがちゃんとわかるようにしてくださいよっていうことを言ったつもりなんですけれども。
0:27:20	これ、水位上昇側、なぜ、まず、加古川から行こうか。
0:27:26	下降側も、なぜ、
0:27:28	これで妥当だっている話になるんのかっていうのはこれ読んでてもねわからないんですけど、これタダノコウ、こんな、
0:27:37	こんな検討しましたっていう説明にしか、
0:27:41	ちょっと見えないんだけれども、何でこれが回答概要に、
0:27:45	できるんですかちょっと教えてください。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:51	北海道電力のはおっきいです。
0:27:54	糖水加古川というところで、と三つ矢羽根記載しております。そのうちの 一つ目のポチは、基本的な事項っていうところで水位下降量とかだったり 下回る時間というところ。
0:28:08	どっちが対象なんだってのがわからないと、後段の説明が混乱してしまう というところで追記したところになっております。妥当性に関わる場所は その下二つ。
0:28:18	ていうところが、妥当性の説明になるのかなと思って作ったところになっ ておりますが、一つ目、二つ目の矢羽根ですが、同地震津波の緒履歴 を下回る時間の最大ケースっていうものを、
0:28:31	まず一つ基本のケースとしてありますと。
0:28:34	そこから泊発電所の波源の特徴、具体的な水位変動量大きい波源とい うのは振幅が大きいので、組み合わせると貯留堰を下回る時間が長 くなる可能性があるというところを踏まえて、
0:28:45	地震津波の水位変動が大きい波源を対象として組み合わせ評価をやっ ていきますと。
0:28:51	そういうところで、組み合わせ評価上 厳しい波源が選べますというところ で、
0:28:56	妥当なのかなというところでは。最後三つ目の矢羽根っていうところで、 今回組み合わせ評価として大事なところは重なるかどうかというところ になっておりまして下降側については、
0:29:07	2 ハタ 4 はの間のところが特に重要なところになっておりますので、その 中で、加古川の波と波同士が重なって時間が延びているので、まず異 常体等ですとそういったところが、
0:29:20	説明したいところと考えております。以上です。
0:29:26	だからこれって会合の方なんかと同じようになるんですけど、何かイマ イ。
0:29:32	一つは、
0:29:33	必要な原画をちゃんと選んで組み合わせていますっていうようなこと を言ってるんですよその泊発電所の特徴を踏まえて、
0:29:43	組み合わせるべき。
0:29:48	波源がちゃんと選んでいるから、
0:29:51	だから、まず、計算のやり方として妥当なんですよっていうことを言っ てるんだけど、
0:29:58	これね見てるとね。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:30:00	こういうものとかいうものを、
0:30:02	検討対象波源にするって言うだけで、
0:30:07	なんなんなのかなんか、多分言葉足らずなんだと思うんですよね。で、 二つ目の柱としては、
0:30:16	ちゃんと重なっているから、
0:30:21	ということなんだけど、
0:30:25	これ、これでわかるんだっけこのこんな書き方で。
0:30:31	ちゃんと重なり方もしっかり重なっていることを確認できたんですよって いう二つの観点。
0:30:39	だと思ってたんだけど、
0:30:40	これ、
0:30:42	二つ、三つ目の矢羽根って、
0:30:46	どういうことってんだ。
0:30:49	北海道電力竹田でございます 12 月 8 日の会合ではまず地震単体に比 べて組み合わせた後の方が長くなっているという点、後、ご確認いただ いたということと、
0:31:00	もう 1 点は日本は、の下げにおいて、下降側の水位が各々重ねあり合 っているというふうに、2 点ご確認いただいたので、ちょっと一つの文章 で、二つは、
0:31:11	まざって書かさせていったりするので、その評価したことと、妥当性の確 認の部分が、少しくちっと読めるように、修文考えたいと思います。
0:31:29	うん。えっとね。
0:31:31	これ論理構成でこれやることを書いてるんですよね。やることを書いて て、
0:31:37	こういうことをやりますって書いてるだけで、
0:31:40	何なんですかっていうところがよくわからなくて、これ前のヒアリングで も、
0:31:45	ちょっと会合で我々言ったことをもう 1 回ちゃんと見てくださいよって言っ たつもりではあるんだけど、
0:31:52	何か伝わらないんですかね。
0:31:55	もう簡単に文章でこう書くとしたらこうこう、
0:31:59	こういうこと、こういうことによって、
0:32:03	そのコウ、
0:32:05	敷地に対して大きな、
0:32:07	影響を及ぼさ元が選定できているっていうのを、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:32:11	ちゃんと書いてもらったらどんな文章になるんですかっていうことに聞きたいんですね。
0:32:23	はい。すみません北海道電力松浦です。今のご指摘踏まえまして文章の構成等、シンプルにというかわかりやすくさせていただきたいと思います。1点確認なんですけど、
0:32:33	今我々はこの回答概要というところでこういうことをしますとか、やることを書いているところちょっと止まっていますので、こここのところに
0:32:43	結果はこういうことが証明できたというかですね、妥当性を確認できたというようなことまで追記するというようなイメージでよろしいでしょうか。
0:32:58	結果こういう話じゃなくてこれ、いや、
0:33:03	選定方針だけで妥当ですっていえるのかどうなのかっていうのはちょっとわからないんですけど。
0:33:09	とにかくこれはこうこうだから妥当なんですか、こうこうだから、必要な検討ができているのか。
0:33:17	そこがね。
0:33:19	ストレートに答えてないでしょうねって思いますよ。それなんかまたよく考えてもらって、
0:33:28	作文してこれパッとわかるような書き方をしてくれたら、多分こう説明していることは何か、コウダからコウダからって言うてるんですけどもそれがここの資料になってないと思うんですよね。
0:33:42	ちょっとこれをまた会合をかけてまたおんなじことを言うっていうのも無駄なので、
0:33:48	もうこの場でちょっと
0:33:51	確認した次第です。
0:33:53	あと、
0:33:54	上昇側っていうのは、
0:34:45	えっとね下降側は、
0:34:47	何かきちんとかかけ今言ってるようなことをちゃんと書けばいいと思うんですけど例えば上昇側って、私多分か会合で私が言ったのかよくわかんないんですけど
0:34:59	これ網羅的にね、検討しているっていうのがね一つの大きなポイントで、
0:35:05	ちゃんと網羅的に選んでまして、網羅的に組み合わせたんですよ。
0:35:09	網羅的にできてるんだったら、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:35:14	ちゃんと大きいものできて、エラー、選ばれてるでしょうねとは思うんですね。
0:35:19	で、そういうのを書けばいいんだと思うんですけれども、
0:35:33	規制庁の名倉です。
0:35:35	72 ページ参照って書いてあるところ、ほとんど意味がないこと書いてません。
0:35:41	当たり前のことじゃないですけど、
0:35:47	いや、私言いたかったのは、
0:35:51	もうストレートに言っちゃう等、
0:35:53	評価方針のところから右側に、
0:35:57	破線で、
0:35:59	箱引っ張ってますよね。
0:36:02	そんなカノウ以上からっていうところ。
0:36:05	なんか、
0:36:07	以上からっていうのなお書きですよ。
0:36:11	この以上からっていうところの内容を下のところ見に行くと。
0:36:18	10 ページ。
0:36:28	10 ページの異常からって右側に書いてある下から三つ目のところ。
0:36:34	何かあっさり書き過ぎてませんか。
0:36:37	キタノの明日のピークが重なる波源の組み合わせ評価のところにはちゃんと書いてあるじゃないですか。
0:36:43	地震に伴う津波の前波源を検討対象としてって書いてあって、
0:36:48	これ網羅、網羅してやってるってことですよ。
0:36:51	こころ辺の内容をちゃんと波源を選定して、ピークの水位が高くなる波源波源とか波源のパラメータを特定して組み合わせ評価を実施するっていう、この二つの構成をちゃんと、
0:37:04	上のところにも入れ込んで書かないと、
0:37:08	いけないんじゃないのっていう、そうすると、一番下の敷地に大きな影響及ぼす波源って書いてあるところの 72 ページ参照してるところがいらなくなるんですよ。
0:37:17	だから、あるからこれか、妥当性確認をしてるようなことさも書いてるんだけど、
0:37:23	そもそもピークが重なる波源の組み合わせの方針としてももうある程度網羅性を有したようなことやってれば方針でも説明ができてるはずなんだけど、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:37:34	そこら辺が表現できていなくてさらにおかしいのは、
0:37:37	上のところ以上からってしててなお書きで書いてあるBがAとB並列に書いてるから、
0:37:45	なお書きっていうんだったら、
0:37:47	Aが強調されてBはあくまでも補足的な検討ですよ。でも、北海道電力は、確かAとBはもうほとんど同列みたいな説明の仕方をずっとして、そこ全然変わってないですよ。
0:38:01	だからすいませんここがものすごく違和感があって、
0:38:06	うん、なんかもうキーワードはそろってんだけど強弱の付け方とか説明の仕方、
0:38:11	ガー。
0:38:12	違うとこんなに印象が違うのかなって逆にちょっと思いました。
0:38:18	言ってることを、わかりました。
0:38:21	種田さん私言ってるけど、多分、
0:38:26	おかしいですかねずっと。
0:38:42	結果的に行った時にAの方は全波源を検討対象としてPEEKの重なり合いをちゃんと、このサイトの特徴も踏まえてみました。
0:38:52	波源を重なり合うものを探して、それがさらに高くなる可能性をパラメタ特定して解析しましたっていうこれがメインなんですけど。
0:39:02	それ以外にもう、
0:39:04	水位が高い波源っていうものも、ちゃんと補足的だと思うんですけどなお書きのところなんで、これもちゃんと組み込んで全部やりましたよ。
0:39:16	ていうそこが多分言いたいと思うんですけど。
0:39:19	うんそれ言ってもいいんだけど、ちょっとここら辺の強弱の付け方とかちゃんと。
0:39:24	言って全体の網羅してる。
0:39:27	では元を網羅してるっていうふうな、
0:39:31	こととそれから組み合わせの方法として、水位が高い波源といったものも、
0:39:38	いろんな検討してるからこれも全部、
0:39:42	評価として加えて、網羅性を確認しましたよってことですよ。
0:39:48	ここら辺をちょっと、何か
0:39:53	方針で説明をしてくればそれでいいのかなと思います。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:39:59	当北海道電力の青木です。この 10 ページ上昇側に関わるところで、まず方針として網羅的になっていうところが重要かと思っておりますのでどう いう考えで網羅的になっていうところを、
0:40:11	方針の中でしっかり書くというところはまた、の組み合わせ評価っていう ところが、実際我々としても一番厳しくなるような評価だと思っておりますの でこっちがメインの評価。
0:40:21	それに加えてBの評価ってというのは補足的に追加してやっていくという ところでその強弱のつけ方っていうところ、あと方針っていうところをしっ かり書き込めば、10 ページの右下にいつてる妥当性確認っていうところ は蛇足になってきますので、
0:40:37	まずは方針というところをしっかりと書くというようなこの 3 点。
0:40:41	どう修正していきたいと考えております。以上です。
0:40:46	ちょっと、ちょっと僕はねその方針でこうなってるからいいんだってという話 ではなくて、ちゃんとそういうものが選ばれているっていうのを、方針 方針でね。
0:40:58	こういう方針だから、まずは網羅的にやる方針としてこういうものがある んですよと。で、その結果、ちゃんとこういう波源が選ばれているので、 だから、
0:41:10	適切なんですよっていう説明が、
0:41:13	いるんだと思うんですけどね。だから論理構成を評価方針にコウ。
0:41:18	なんていうんですかねこ。
0:41:19	来変えて説明しているっていうのが、何だかちょっとこう、
0:41:24	僕はあんまりしっくりきてないんだけど、
0:43:31	入ったんです。その辺は、やったこと自体はね僕らもわかってるつもり で、ちゃんと伝わるような資料ということでは、ちゃんと伝わるつもりなんです ねもとと会合でも、
0:43:44	でですね、そうなったときに、
0:43:47	ここのだから論理構成とかいうのは、なお直つてくると。
0:43:52	ましてですよ。
0:43:54	なんか、これを踏まえて資料 2 の方を私見見るんですけども見たん ですけど、
0:44:02	結局資料 2 の方は、
0:44:06	上昇側も加古川も同じような流れで、同じようなというか、一緒にして流 してることなんですかね、60。
0:44:17	58 ページ以降かな。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:44:22	前は、我々、あの会合で、
0:44:27	は、選んだ波源は妥当ですねって言った時は、上昇側は上昇側下降側下降側ってということで、
0:44:36	資料がなってたんすけど 69 ページ以降はもう全部上昇も下降側も一緒にして、
0:44:43	流してるってことなんですか。
0:44:47	北海道電力の青木です。藤組み合わせの解析自体については同じ解析のモデルになっておりまして出てくるアウトプットが上昇と下降で違うというところを、
0:44:58	なので同じ組み合わせ評価というふうにとらえております。その中で、上昇側の組み合わせ評価っていうところで、いろいろこういうパラメータ振ってきますっていうところを資料化しておりまして、
0:45:10	その後、加古川っていうところで、こういう考えで組み合わせ評価の最大ケースを選んでいきますと、そういった流れにしているところです。
0:45:19	はな、下降側に話が切り替わるのはどっから切り替わるんですか。
0:45:54	サイトウ電力タケダでございます社内でも議論はしてまして、今の構成だと、方針を上げと下げまず記載資料 2 で記載して、波源をAとB、それぞれ全部出してきました、
0:46:08	そのあと最後、その波源を選んでいくところにコウ。
0:46:11	まとめで、こういうふうに波源選んだっていう形になってるんですけども、
0:46:20	えっとねー。多分、
0:46:23	ひょっとしたらまとめ資料はそれでいいのかもしれないですけど、結局そのコメント回答で書いてる、Aが何なのかBが何なのかとかが、
0:46:33	もうよくわからなくて、
0:46:37	これ。
0:46:38	この、
0:46:39	コメント回答の例えば 10 ページでやってるのが、
0:46:43	これですって言われると全然コウ。
0:46:46	一致しないですよ。
0:46:49	で、なおかつ 69 ページは何のフローなのか。
0:46:53	69 というのは資料にね、
0:46:57	これは僕は、
0:47:01	上昇側の、
0:47:05	あれこれ加工が向こうの、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:47:07	フローだったんでしたっけ。
0:47:10	花崗岩もこのフローで説明してましたっけ。
0:48:06	すいませんこれ資料として、
0:48:09	下降側の話が始まるのは、何ページからですか。
0:52:32	北海道電力です資料 2 につきましても資料 1 また、これまでの会合を踏まえて上下を、
0:52:40	わかりやすく書き分けて、
0:52:43	聞きたいと思います。
0:52:48	はいなんかあのね、多分会合で、下降側でこれでよさそうですねって言った理由は、上昇側の検討がちゃんとあったそれをベースに、下降側の話がされたから、だからこういうことをやってるんだったらわかりますねってというような、
0:53:03	ことで、資料も満たしコメントもしたつもりなんですけれども、
0:53:09	くどい根井
0:53:12	実際分けてやると本当にすごくくどくて、
0:53:15	何か上手く取りまとめないっていうんだったらちょっとまた考え物なんでしょうけど、
0:53:20	今はねえわか、わかりにくくなってますねすごく。
0:53:48	うん。
0:53:49	いや、もしそうだとしたらね方針はこう違うんだけど、やってることは一緒ですってというような、
0:53:55	どっかにナイトウ。
0:53:59	という間の問題なのかもしれないんですけれども、
0:54:03	ちょっと、
0:54:07	濃い。
0:54:09	考えてもらった方がいいかなと思いますよ。
0:55:53	あと根井、これ、
0:55:55	資料 2 の 67 ページはこれコメント回答を使ってなかったんでしたっけ。
0:56:03	使ってないんでね。
0:56:07	まだ
0:56:18	なんかねこれを読んでてねえ、あの下のね。
0:56:22	組み合わせBの 1 っていうのが右にも左にもあるんだけど、B-1 としておきながらこの中身が違うとかですね。
0:56:30	なんかね、こう、うまくコウセ資料作って欲しいし、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:56:34	要するにBのこれのうち、こういうケースの組み合わせ評価ってこと なんだけどこれ今の書き方だったら、B値ってというのはこういうもんです よってというような書き方に見えてしまうのと、
0:56:46	あとこの①②だとか、①から⑥だとかゴコウ、
0:56:51	検討波源②だとか①だとかコウ、
0:56:54	丸の使い方とコウなんか、
0:56:58	同じおんなじ資料で違うことで、丸、違うことを示すのに同じ。
0:57:05	記号をこう示してあったりするのが、
0:57:07	何かなあとってはいますけど。
0:57:13	ちょっとその辺は、
0:57:17	うん。
0:57:19	別に間違ったことが書かれているとは思わないので、
0:57:22	工夫してもらえたらな。
0:57:25	と北海道電力の青木です。わかりやすさの観点を踏まえまして、修文し ていきたいと考えております。以上です。
0:57:32	この規制庁側からこの 7、7 僕の方はまあまあ、
0:57:36	大体わかって 7、7 の、
0:57:39	通しナンバー 7 のところで、
0:57:42	確認とかありますかなければ次の
0:57:45	ジャズトンネルの 7' っていうところに入っていきこうと思うんですけどどう ですか。
0:57:52	規制庁の名倉です。
0:57:54	ちなみにね前の奉納。
0:57:58	すみません、資料 1 実は、
0:58:02	74 ページ。
0:58:04	彼が下降側になっていて、実はこここっちの方を見た方がビジュアルで わかりやすく、一連のものがネタがそろってるなと実は思ってたんで すけど。
0:58:16	ちょっとこの 74 から 77 ページまでのイメージの中で、
0:58:22	ちょっと 1 回整理をしてもらって、
0:58:25	論理構成整理をして言い方を強弱つけて、ちゃんと言ってもらえれば、 ここにネタそろってます。実は、
0:58:34	ちょっと佐口が、会合で言ったやりとり、もうちょっとよくシンプルに、どう いうふうにまとめたら、どういう言い方になるかっていうのを、よく考えて いただけたらなと思います。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:58:47	という意味でコメント回答としての資料では、65 ページはちょっと何か、ここに回答概要を書いていることが本当にいいかどうかというのはいよく、
0:58:57	6566 は吟味しないといけないけど少なくとも 67 ページからの流れ、
0:59:02	わあ、ある程度、ネタがそろってる中で、どういうふうに言うかっていうところのチューニングをちょっとしてくださいと。決してこのできが非常に悪いというわけではないので、あとは、
0:59:15	強弱のつけ方をどうするかってところをちゃんとやってもらえれば、
0:59:19	コメント回答としては成立する。ただ取りまとめ資料としては、やっぱり、
0:59:25	わかりにくいので、抜本的にちょっとここら辺は改善が必要かなと思いました。
0:59:31	すいません。以上です。
0:59:36	北海道電力でございます 1 点ちょっと確認させていただきたいことで、大変失礼なんですけども、65 すらで、指摘事項は 12 月 8 日、審査会合ということで限定すると。
0:59:49	基本的には下げのロジックの 2 構成ということで、回答をすごく狭義にとらえると、下げだけきちっと構成を変えて、回答概要とすることも、
1:00:00	できるんですけれども、全体としては通し No. 7 ということで上げ下げ組み合わせについてご説明していくっていうスタンスを取ると、上げも欠かさる。
1:00:10	わか変えていくっていうことに、
1:00:13	なるんですけれども、ちょっとこのアベがここにいるとやっぱり少し違和感があるものでしょうか。
1:00:55	それで続いて茶筒トンネルの方なんですけれども、
1:01:03	78 ページから始まって 79 がジャズトンネルの概要か。
1:01:13	でねこれもね、会合の指摘にね、どこで答えているのかがね、よくわかりにくかったんですけれども。
1:01:21	これ、
1:01:22	80 ページ目は、ナンバー28 なんですけれども、
1:01:27	計画内容によっては当該道路が津波侵入経路となり、基準津波策定における評価点の追加が必要となることも考えられるため、
1:01:37	津波評価への影響を確認、説明することと。
1:01:40	ということなんですけれども、結局これ、回答概要のロジックでいうとこれこれ多分、そのロジックだけの話ですよ説明だけの話なんですけれども、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:01:52	これにこたえようとしてやったことが、
1:01:58	津波が入らないことを確認し始めるんですよね最初に、
1:02:03	それ検討確認波源としたんだよというのがコウ。
1:02:07	三つ目のこの会回答概要の三つ目が、
1:02:11	津波が入らないことを確認したと。
1:02:14	で、
1:02:16	四つ目が、
1:02:17	ここで影響が大きいものを選んでみても、
1:02:21	入らないよという確認をしたと。
1:02:24	次が、何か、
1:02:28	施設側の話になるんですよね。
1:02:31	これがちょっと何でこれが入ってくるのかよくわからないんですけど、なお、
1:02:36	なお最後に津波、
1:02:38	評価の影響はないっていうことなんですけれどもさ、最後の丸でね。
1:02:45	これって、
1:02:47	どっかのタイミングで、どっかの
1:02:51	例えば三つ目か四つ目の丸の後に、
1:02:55	だから基準津波にする必要はないっていうふうに考えたとか、そういうことは
1:03:01	書かないんですかね。
1:03:05	入らないことを確認して入らないことを確認した。
1:03:08	で、指摘事項は、基準津波策定における評価点の追加が必要になることも考えられるんだけど、説明してよっていう話をしているわけであって、
1:03:19	この辺の関係をうまくこう説明してもらいたいと思うんですけれども。
1:03:24	今あれですよ基準津波にする必要ないっていうふうに考えてるんですね。それはどこで、どこのタイミングで、北海道電力、最初っからコウ。
1:03:35	基準津波ってこうするじゃなくって、
1:03:39	検討確認は元にしたっていうことなんですかね、ちょっとその辺の考え方確認させてください。
1:03:54	北海道電力の青木です。当基準津波にするか否かっていう考え方をまずどこで書いてるかっていうところから言わせていただきますと、121 ページ。
1:04:05	になりまして、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:04:13	こちらは参考資料という位置付けになっておりまして、今回影響確認は元でどういった位置付けなのかっていうところをまとめたものになっております。
1:04:21	一つ目のポチで、まず、
1:04:26	基準津波は、
1:04:27	一つ目の個人の考え方でやっていきますというところで、ちょっと当間氏 2 基準津波はこうしますけど、ちゃんとトンネルの最大波源を、
1:04:38	基準津波にするか否かっていうところの記載はちょっと書かれていないというところになっております。以上です。
1:04:48	ちょっとこれあれなんですかね。うん。北海道電力としてはこれを検討、検討確認波源みたいなのを作ってやったけれども、それが十分に
1:04:59	差があると。
1:05:01	いうことをもってこれやっぱり基準津波とするの選定のコウ。
1:05:06	ぜひ評価点にする必要ないっていうのを考えているということでもいいですか。
1:05:12	電力のアオキですと端的に結論でいいますと基準津波にする必要はないというふうに考えております。以上です。
1:05:28	移動電力のアオキです。流入が発生しないので、基準津波にする必要はないというふうに考えております。以上です。
1:05:55	まずは、
1:06:16	規制庁佐口ですけど、ちょっと確認させていただきたいのは、
1:06:22	いわゆるこのん立つトンネルとかアクセスルートの扱いですよね。これが、
1:06:28	基準規則とかの関係でまずど、どういう関係になっているのかがちょっとよくわからなくて、しかもその審査項目との関係も含めてですね。
1:06:38	何か一部、
1:06:39	ちょっと書いてありましたけど、
1:06:42	例えば 18 ページで、これ参考資料ですけど、一番最後、今後の耐津波設計方針に係る、耐津波設計方針における説明内容ということで、
1:06:54	これ、
1:06:54	内容自体って、
1:06:57	まさしくこの対津波設計方針で確認する内容なんじゃないですか。違うんですかね。そこまでちょっと確認させてもらっていいですか。
1:07:12	北海道電力の青木です。トンネルから流入するか否かっていうところが、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:07:19	基準津波側で議論すべき内容なのか対津波で議論すべき内容なのかってところかと思いますが、我々の認識ってところだと、後者なのかと考えております。以上です。
1:07:40	はい。規制庁佐口です。そうすると結局その耐津波設計方針のところ
1:07:45	影響というのが流入するかしないかって話ですよ。結局、基準、規則との関係でいうと、
1:07:55	言ってしまうと基準津波による遡上は、地上部から、
1:08:00	到達または流入させないこと。
1:08:04	敷地内ですね、敷地内という性格上、Sクラスに属する施設の設置された敷地等において、
1:08:12	ここに関係する部分ですよ。そこは、
1:08:15	よろしいですよ。お互いの認識としては一致してます。
1:08:19	大丈夫ですか。
1:08:23	北海道電力の青木です。衛藤。
1:08:26	対津波設計方針の中でSクラスの敷地内ってところに津波を流入しない防止の対策とか、そういう設計をしていかなきゃいけないというふうに認識しております。以上です。
1:08:43	既設の名倉です。外郭防護1の前半で、
1:08:47	敷地への遡上はの流入防止の観点で、
1:08:52	見る項目の中で見確認しますと、だから膨張てでの敷地防潮低が対策となっている敷地への流入と基本的に同じところを見る。
1:09:06	ということですね耐津波設計上、
1:09:10	でちょっとお聞きしたかったのは、
1:09:12	そうすると一じゃあ防潮底を設置するときの膨張て前面の水位、
1:09:19	は膨張て全面とかなり支配的になってるとしたときに、これって何メートルぐらいだったんですかそれに対して今回のやつは何メートルさ。
1:09:29	5メートル以上下がるんですよ。
1:09:34	何かその相対的關係からこれは、
1:09:37	基準津波の選定、評価点んから落とせるという論理じゃなかったんでしたっけ。
1:09:46	いや私すいませんそういう理解をしていて、
1:09:50	だから
1:09:51	もう申し訳ないけど
1:09:54	参考7なんて何とかって言ってましたよね。
1:09:59	影響確認波源って設定するのが早過ぎません。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:10:04	なんで以南でいきなり、
1:10:06	影響確認は元って設定できるのかって、私よくわかんなくて、
1:10:16	当北海道電力の青木です。影響確認波源を設定した経緯というところなんですけど、ちょっとさかのぼりになって資料中の記載とかはないんですけれども、
1:10:27	令和4年の7月28日の、このチャートネルのところのコメントをいただいたときに、プラント側の審査だったんですけれども、その中で
1:10:39	ブランド側の審査としてこれちゃんとトンネル等から流入するか否かっていうところについては定量的な評価を示すことといったコメントがありましたしてそれに合わせて基準津波側の方でも、
1:10:53	衛藤コメントをいただいたそこは今回コメントファイトの対象になっているところになっております。
1:10:58	そういった中で、今後のプラント側の説明の中で、その着トンネルから流入するかしないかっていうところの評価に用いる波源というところで、
1:11:09	この影響確認波源を用いる方が適切というふうに加え、こういった名称で定義しているというところになっておりますこちらで回答になってますでしょうか。回答になってません。
1:11:20	言われたからそうしましたって今答えたんだけど、
1:11:23	これ全然。
1:11:25	論理になってない。
1:11:27	ちょっとすいません私気おかしいなって思ったところを言わせてもらおうと、
1:11:32	3ページ、5ページ。
1:11:36	資料1の5ページ
1:11:41	ところ影響確認励んで下から三つ目の丸印のところ、
1:11:48	3ページの下側の四角で、下から三つ目のところで、影響確認は元と呼ぶでいきなり呼び始めるんだけど、
1:11:55	一方でお書きのところ、
1:11:58	影響は元確認波源を用いて、防潮て前面等の水位評価の値比較したら、
1:12:08	もともと基準津波として波源として選定している。
1:12:13	ものに対しての評価結果を上回らないって、この確認をしてから、
1:12:19	影響確認は元で命名するんじゃない。
1:12:24	最初から影響確認は元なんて言わなくていいんじゃないか。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:12:28	と思ったんですけどね。ただ単に、影響評価をずっとしてきて、言われたからやってるんですよ。
1:12:35	その結果はどうだったか、それと他の基準津波として選定した波源との比較。
1:12:42	それから今は笹久慈の方で言った意味合い。
1:12:47	基準適合上の意味合いとかを勘案した基準つ、それを合わせて基準津波の
1:12:53	選定点とはしなくていい。
1:12:56	それとあわせて影響確認すればいいんですで影響確認は下になるんでしょう。
1:13:02	だからすみません今まで全部田井さんでも、谷アノ佐口がちょっと全部繋がるんですけど、
1:13:09	これって、
1:13:11	まず評価をして評価をし、したものの位置付けに関しては、
1:13:16	どういう位置付けになるんですかっていうのを、
1:13:19	上からなぞっていったときに、基準適合も含めて、その時に基準津波の波源として、考慮する必要はないです。これはあくまでも施設側の影響評価としてやればいいんです。
1:13:33	現に入れ替わってないでしよって波源が、
1:13:36	ていう論理になるんじゃないかなって思ったんですけど。
1:13:46	ほっかい。
1:13:49	北海道電力の青木です。技術基準規則とか記載確認した上で、これらの波源が、最終的に影響確認波源というところに、施設側の評価で用いる波源というところに、
1:14:03	持っていくってような流れになっておりましてその説明の中の最初から影響確認波源っていうところは、ちょっともう決めつけも入ってまして適切ではないのかなと思っておりますので、その辺り、ちょっと記載の適正化を図っていきたいと考えております。以上です。
1:14:19	規制庁の名倉です。だから、基準津波の評価点とする必要はありません。
1:14:27	だから、基準適合上だけ浸水経路としてちゃんと確認は、
1:14:32	別の波源でしなくちゃいけないので、これは耐津波設計上、
1:14:40	方針を確認する上で影響確認波源として命名して評価をちゃんとしますっていう制限をすればいいと。
1:14:47	ということになりますね。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:14:49	はい。
1:14:50	ということで、ちょっと論理をもう少ししっかり組み直して、
1:14:55	説明を考えていただければと思います。解析してる内容とか、
1:15:01	実質的にはもう解析はそろってると。
1:15:04	ネタもそろっている後どう説明するかだけ、
1:15:08	あと私はすみません、見方甘いかもしれないけどそう思ってるので、
1:15:12	そういう観点でちょっと整理し直してください。以上です。
1:15:19	電力の青木です。江藤。
1:15:22	確認内容を踏まえて、まず資料のわかりやすさの観点で修正していき たいと考えております以上です。
1:17:31	ヒライ
1:19:11	谷です。あとね次 81 ページに進んで、
1:19:16	ただねこの説明をね、できればもうちょっとうまくやって欲しいなと思う んですけど検討フローといいながら何か検討フローに、
1:19:25	検討フローのようでコウ所。
1:19:28	章立ての説明で、
1:19:31	やりますやりますやります。
1:19:34	て言ってるんですけども、
1:19:37	何かこれってもう結果も、結果も含めてこう書いてしまえば、すごくこうわ かりやすい資料になるんじゃないかなっていうふうに思ったんですけど、 多分、
1:19:51	やってることは資料見てわかりますよ。でね、
1:19:57	最初の検討方針で、敷地に対して大きな影響を及ぼす波源、次ページ 参照なんですけどこれ、上昇側ですよ。
1:20:07	上昇側の。
1:20:11	上昇側ですよっていうのと、ここの地点について言って書いてもらっ た方が、アスタリスクで書いてるのわかるんですけども、何か言葉が 独り歩きしてなんじゃこりやっていう感じなんですよ。
1:20:22	それを任せますで、そうなった時に検討フローで、この
1:20:27	令和 5 年 10 月 20 日の審査会合御説明とかこれ何でいるのかなという のがわからなかったり、
1:20:34	あとねこ右側に進んで、
1:20:38	既往の解析結果、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:20:43	既往の解析結果を用いて、雑入コウトンネルアクセスルートとの影響の大きい津波の組み合わせを選定するって、選定するって何かよくわかんないですよ。
1:20:55	これで分析をするってということなんですよ。
1:20:59	で、分析をするんですけど、
1:21:02	ここ。
1:21:03	これ分析をするの後に、
1:21:06	何をするかっていうのがコウ。
1:21:09	対象が書かれてるってことでいいんですかね、分析をするんですけど、
1:21:14	その対象が当北海道電力の青木です。頭いいかかったところについては分析した結果を踏まえて、1%と一般が厳しくなって、それで移行を検討するところを言いたかったところになっております。以上です。
1:21:29	後は多分これ水位上昇メカニズムの分析っていうか、
1:21:34	何か特徴を整理したっていうような感じなんですかねって思いましたけど
1:21:38	この辺は好みもあると思います。
1:21:42	でですね僕はやっぱり気になったのは、
1:21:46	北海道電力これ一発一派だけを見とけばいいんだと、いっぱいいっぱいっていうのは、地震一波と。
1:21:53	川シライやっぱっていう話なんですけれども。
1:21:56	やっぱりね何か説明が、ただ単にこれ、北海道電力は、一般の方がこの、
1:22:03	この地点を一般の方が大きいから一派だけを見ますよっていう、
1:22:08	それだけのことが説明されているんですかねこの 9394 ページとかでは、
1:22:14	北海道電力の青木です。衛藤基本的には一般の方が大きいってところを、メカニズムで、最初で、
1:22:22	特定した後そのあとのフロー流してるってところになっておりまして実態は一般以外ってところもちゃんとケアしておりましてそれについては 94 ページの下段の五名のところで書いておりますが、
1:22:34	一波と一般以外の組み合わせ評価については影響がないことを確認しているところで、資料 3 の方の、
1:22:41	396 ページ以降で、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:22:45	前回の膨張てなどのときでも、いっぱい以外とか、そういったところに合わせて、同じような資料作ってるっていうところになっております結論としては、
1:22:56	わかりやすさの観点で1%と1%っていうところをフォーカス資料化してそれ以外もちゃんと補足のほうで説明していますそういった構成にしております。
1:23:10	Nクノアオキでした。
1:23:13	地震の2はもう対象になっておりまして、
1:23:16	すいませんちょっと、
1:23:17	急いで説明したので、補足説明書資料3の396ページ。
1:23:23	になってきます。
1:23:37	藤。
1:23:38	こちら前回の資料と同じになっておりまして、396ページでは、地震津波の単独のは形を載せております。
1:23:47	こちら見ていきますと、一波と、
1:23:50	心配最大でして、4羽は、比較的高いというふうに考えております。
1:23:55	2羽と38というところは、それと比べて低いですよというところを書いたところになっております。
1:24:02	397ページでは、川白のは形を変えておりまして、
1:24:06	もうこちら一も頭も一波が最大になっております。3ハタ4は、については、一般と比べて低いんですけどもそれなりに高いですよと。
1:24:17	日本については、ほとんど低いという状況になっております。
1:24:22	それが重なる可能性がどうかというところは、398ページ。
1:24:28	前回の膨張てなどの説明でも使ったような、
1:24:31	この矢印のところ等は、紫ピンクのハッチング測るやつが重なる波源というふうにまとめておりまして、
1:24:39	藤一派と1%は重なるんですけども、それ以外の波ってのは重ならないというところなので、
1:24:47	今回1%と1%ってのを対象にしていますというふうにまとめております。
1:24:56	頭に歯については低いというところでスクリーニングしております。
1:25:01	もっと正確に言いますと地震津波のに
1:25:04	藤衛藤、川下の2班ですかね。
1:25:08	て言いますと、川白の2羽はほとんど水がないと。
1:25:12	川白の一発は重なるんですか、地震の2は。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:25:16	川白の一派と地震の2は、
1:25:25	そう観点ですと、地震津波の2は低いというところでそこはスクリーニングしているところになっております。だからね、あのね、それはわからんでもないんですけど、しっかりとだから9293の資料2の、
1:25:39	の中でも2は見る必要ないんですってすごく強くこういえるような根拠があるか、それか、重なりあいも考えても2羽はこう見なくていいんですっていう。
1:25:50	お話をしなきゃいけないと思うんですよなぜなら、
1:25:54	なぜなら包丁てだとかの評価のときに、2羽が小さくっても、
1:26:01	2羽が小さくてもじゃないか、2羽がチャンピオンにならないやつでも、
1:26:06	パターンなのですか。それでも重なったら大きくなるんだっていう説明をしてきたわけだから、そこの関係をね、確かにこれ大きくなりそうになんていうのわかるんですけども。
1:26:17	何かその重なり方の話もしっかりとした上で、要するに、
1:26:22	あれなんでしょう、一般。
1:26:24	地震の1パワーを有意に大きくって、必ず重なるんです。だから、
1:26:31	小さな200頭、
1:26:33	頭重なってもそれより絶対大きくなるんですっていうことを言いたいんですよね。
1:26:38	何かその辺のキーワードがあったら僕も、
1:26:41	わかるんだけど、
1:26:46	どうなんすかねそういうの表現できてんですかね。
1:26:52	北海道電力の青木です。お考えとしては、江藤地震津波の一步が町にとっては一番高い頭も、一般カタカイで一番高いと一番高いっていうものが重なっているんで、
1:27:06	茶津のTに対しては1%と立派な組み合わせが対象というところがもうちょっと補資料1の方では読み込めないんですけども、その3、資料3の399の、
1:27:19	矢印の下のところが結論になっておまして、
1:27:23	以上よりというところで、ピークの水位が最も高く重なると1%と1%っていうところを対象にすると。
1:27:30	というようなふうにとまとめております。
1:27:58	北海道電力の青木です。基本説明は資料1で説明していきたいと考えておりますのでその中で、1%と1%が対象になるっていう考え方は読み取れるような形で修文していきたいと考えております。以上です。う

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	ん。そうそうですねセンスとしてはあれですよ。ニワは見なくていいんだっていうのが、
1:28:17	はっきりとわかるような、
1:28:19	今ほら、一般の方が、
1:28:22	影響が大きいっていう話に終始してますけど、日本は見なくていいんだっていうセンスで説明してるんだと思うので、その辺わかるようにして欲しいのと、あとねこれ。
1:28:33	92 ページ 93 ページね、これ。
1:28:37	とてもわかりやすいコウ。
1:28:39	伝わり方として、
1:28:43	ジャズのところは、
1:28:46	第一波が、
1:28:48	影響するんだと、大きいんだっていう、Aとしてはすごいわかりやすかったんですけども、
1:28:53	これって両方コウ健全地形モデルで書いてるじゃないですか。
1:28:57	これ。
1:29:00	健全地形モデルで、防波堤があることがすごく強調されて、こういう絵になりそうなるんだらうなっていうのはわかるんだけども、その他の
1:29:11	他の地形のモデルでも、そういうことがいえるっていうのはどっかあるんですか。
1:29:17	両極端な例としてこれ。
1:29:20	防波堤なしっていうのをどっかで見ればいいのかなど思ったんですけど。
1:29:28	北海道電力の青木ですと 92 ページ 93 ページ。
1:29:32	こちら決め打ちで健全地形モデルっていうところを使っておりまして、防波堤損傷でも同じようなメカニズムというふうなところ結果として現れておりますのでそちらがあると。
1:29:43	より理解が深まるというところで、今後資料化していこうかなと考えているところです。以上です。
1:31:08	あとはねこれ、96 ページ、資料 1 か。
1:31:14	これ。
1:31:19	令和 5 年 10 月 20 日の会員審査会合D検討フロー。
1:31:25	やったんすこれ、上昇側の検討フローですかね。
1:31:30	北海道電力の青木です。上昇側の検討フローになっております。
1:31:35	だからこれ審査会合で、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:31:37	何とかを評価点とした上昇側のフローなんですよってというのがわかって欲しいんですけど、あとこれ、全くおんなじですかこれ。
1:31:49	010203 で、
1:31:51	第一波のピークが重なる波源を特定するってなってるけど、
1:31:56	上昇側ってあれ一般モリはもう重ねる波源を特定したんじゃないんですか。
1:32:03	北海道電力の青木です。衛藤。
1:32:06	加古の 10 月 20 日の会合の傍聴では、地震津波の一発にハーって いうのを対象にしておりました。当間やり方ってところで同様にとは 言っていたのでそこら辺ちょっと丁寧な記載ではないので、
1:32:19	修正していこうと思っております以上です。そうなんすよねこういうことを やると、説明するときどこが同様で、どこ変えてるのがわからないと ですね。
1:32:29	ちょっと言うこと違う違ってるじゃないかっていう話になりそうなので、 お願いします。
1:32:36	阿藤。あんまり細かく言わないですけど 114 ページの、
1:32:51	これ、これなんかもうちょっとわかりやすい日本語にしてくれたらなっ ていう、全体的にね。
1:32:59	まず参考前回審査会合でもこの文章っていうのはね。
1:33:04	トンネルルートはルートトンネルは評価位置の違いにより、
1:33:09	発電所の地形、津波の伝播方向の影響が、
1:33:16	異なる評価位置の違いにより、地形の影響が異なる。
1:33:21	とか、何、何のとかいうのが多分抜けてたりして、
1:33:25	地形、地形が異なる。
1:33:29	地形が異なるのか、ちょっとねこの文章で読みにくかったっていうのと、 そのあとでこう矢羽根三つこう並んでるんですけど、
1:33:37	関係がね何かよくわからなかったなあとって。
1:33:42	ちょっと
1:33:44	読みやすく、
1:33:46	してもらえたらなというところですよ。
1:33:52	オクの方は、
1:33:58	ちょっと何かあれば皆さんお願いします。
1:34:26	規制庁谷です。通しナンバー9 のコウなんかさ、この辺の確認に入って いきたいんですけども。
1:34:54	谷ですね。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発音者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:35:04	僕やっぱりよくわかってないのが、
1:35:12	最初の 32 ページとかが、
1:35:29	これなんかね行き着くところがですよ左側、行き着くところが、
1:35:34	既往津波の文献調査とか痕跡高の文献調査した後に、
1:35:39	何か知らんけど一番影響があるものを、
1:35:43	1000 抽出するとか、
1:35:45	アノちゅ、例えば一つ目のマル 1 はね、
1:35:49	以下、5、
1:35:51	5 件の既往津波を抽出したってなってますでその次は、最も大きい既往津波を抽出したって書いてますね。
1:36:00	この抽出って何の抽出なんですかね。行き着くところが、再現性解析に行き着いてるんですけど。
1:36:09	僕の既往津波の文献調査っていうのは、これだけじゃないんじゃないですかって思うんですよ。
1:36:16	この既往津波の文献調査とかをする、した上で、
1:36:21	検討波源を、
1:36:24	見るとかそういうのってんなかったんですか北海道電力の。
1:36:28	考えの中に、
1:36:47	北海道電北海道電力の堤でございます。
1:36:51	こちらですねとフローに示しております。
1:36:54	のは主に、まず上段の点線、破線ですね、の枠内で囲っているところ、こちら側の
1:37:01	2 章でご説明しようとしてるところでございます、その文献調査の結果をまず再現解析に使うというところは、こちらで示しています。今、田井さんがおっしゃった通り、それ以外の波源の辺、
1:37:15	選定ですとか、
1:37:16	最終的には選定した基準津波との比較を行って、その妥当性を示すというところにもこちら使っております、そのフローについてはこの破線のところからですね、
1:37:28	下の方に引っ張っている矢印、こちらで示しているというつもりでございます。
1:37:33	以上です。
1:38:13	うん。多分これ一。
1:38:16	最初のところで何かつまずきそうな気がしますね。
1:38:20	だったら、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:38:23	そういう、そういうことにも使える、使うんだっていうのを説明した方が多分よくて、
1:38:30	なんでそれは、地震に伴う津波のところで説明するんですか、文献を。
1:38:35	改めて整理したんですよねそれは影響あったんですかなかったんですかっていうと、
1:38:42	今度また別で、地震に伴う津波で、文献調査を1からこう説明し始めるんですか今後、
1:39:09	なんかねこれ。
1:39:17	いやもしそうだったら、それがわかるようにしてもらったら、多分、
1:39:21	いいと思うんで、まず最初に気を津波の文献調査は、こういうことのためにやってるんです。
1:39:28	今回はここの部分を説明するんですっていうようなことがコウ。
1:39:32	こうなってるってことですね。
1:39:36	起こりますと、
1:39:42	なんかね後はねこの
1:39:44	んとねえ工事性がよくわからなかったんだけどどう既往津波について、この下にこう示している検討を、
1:39:54	26年12月5日と5月17日の審査会合で説明していますよって言うてるんですよね最初に。
1:40:02	これ説明していますよって言うてるんですよ。
1:40:05	でそのあとに、
1:40:08	オオウチ青の部分を、
1:40:12	青の部分を文献調査による検討にて、
1:40:16	新たな知見を明らかにして、検討結果へ影響を確認したって言うてるんですけれども。
1:40:25	もう説明しているんです。青の部分は検討は明らかにしたんです。
1:40:31	言ってる、何かこの辺がこうまくツナカワないし、さらにねこの、
1:40:37	そのあとで1個1個書いてるのが抽出したとか、抽出するだとかいうのが、これからすることなのかどうなのかっていうのが、ここは何か読んでてすごこう、
1:40:47	わからなかったんですけど。
1:40:49	いろいろ言ってますね。
1:40:52	で、
1:40:53	宗田とするとか。下図コウ、この青で囲っているところ、地震に伴う津波とか地震以外の要因にする。そんな、これ、青となっているんですよ。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:41:03	ブルーで。
1:41:05	これ今回説明しないんですよ。
1:41:09	今日は確認したけど説明しないんですか。この、
1:41:12	墨つきの地震に伴う
1:41:25	北海道電力崎田でございます今回こちらで説明しているところになるんですけども、地震以外の要因伴う津波というのは後ろの方で、それぞれ論文とかを調べまして、
1:41:38	どういった文献があって、結果として従前評価していた地震以外の津波の評価高さを上回る要因があったかなかったかっていうところまで検討する、しているわけなんですよけれども、
1:41:51	基本的には、青の部分が今回文献を拾って検討した部分になってまして、変更があった箇所を赤で、
1:42:01	赤字のところ、記載しているということなんですよけれども自制が少し入りまじってるところが、
1:42:09	少し混乱を招いてるのかなと。
1:42:13	うん。
1:42:14	まずそこですねまず何が、今まで説明されてきたことで、
1:42:19	何かは、今回新しく説明しているのかっていうのは、
1:42:24	赤、赤文字以外のところはもう説明してるんだっていう話なんですよ。
1:42:32	過去の審査会合で一通りワンスルーは説明してるんですけども今回文献をひらうと、赤のところの文献学加わっているんで、結果として変わりましたと。
1:42:44	青が、その枠のところ、ダイレクトに文献調査をした結果、
1:42:49	変わったところでその結果を受けて影響を受けるところがグレーのところ、グレーのところ、変わったところも、赤で赤字で、
1:42:59	再現性確認の痕跡高の高さであるとか、シミュレーションの再現性っていうところが、赤字でKカップが変わっているというような表現をさせていただきます。
1:43:14	うん。
1:43:15	はい。
1:43:21	ですよ。
1:43:26	根井。
1:43:31	これ多分前回と変わらなかったことはこうであるとかというのがね何か見ててわかりにくくて、僕だけがわかりにくいのかなんか。
1:43:40	例えばね

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:43:43	再現性解析のところ、津波痕跡高さとの比較を実施するって、これ今回実施したんですよね。
1:43:57	再確認したんですよねこれ。
1:44:00	はい。今回、再確認して、しました。
1:44:04	Kカップが若干数値が変わったということでございます。文章の中に赤字があるところは、今回やったん。
1:44:13	追加でやった内容ですってことか。
1:44:16	さようでございます。赤字部分については新データが更新されたけれども、
1:44:21	まず検討の当社が説明した検討の結果自体には、影響は変更はなかったってことを書いているつもりなんですけど。
1:45:19	規制庁佐口ですけどちょっとごめんなさい 1 点確認でしその資料 1 の 32 ページで、
1:45:26	青のハッチング、
1:45:28	で示されているものは、すべからく、何か文献調査の検討を行っているもの。
1:45:35	赤字は、
1:45:36	データが更新されたものっていう話なんですけど。
1:45:40	この 32 ページの左下地震に伴う津波と地震以外のように伴う津波と、
1:45:47	二つ、青ハッチのD、
1:45:50	地震以外の要因に伴う津波というのは、その後ろに、
1:45:56	あるんですが、
1:45:58	地震による津波っていうのが、
1:46:01	これいつ再、
1:46:02	何ものって、
1:46:04	いないと私は資料を見ててそう思ったんですけど、これは何か。
1:46:10	何を検討されたんですかちょっと教えてください。北海道電力竹田でございますそれは、前回の 1 月 31 日のヒアリングでもコメントをいただきました、
1:46:21	地震に伴う津波についても従前説明していたものから、知見を拾いまして、確認して、影響がなかったということ、
1:46:32	確認してるんですけども、そこを今PA29 すらのところの右下の浅利で日本語に入れてるんですけども、
1:46:40	結果として何か反映して結論なり、その島縁部が変わったかって言われると、変わってないという意味では、調べただけでもな、なかったです

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	っていうことを、29 にさらりと書いてはいるんですけども、そういう意味では 32 っていうのは、
1:46:57	ない、ないんやったら、グレーじゃないかっていうところはあるかと思えますので、
1:47:03	ちょっと、はい。
1:47:05	表、
1:47:13	はい、規制庁佐口sアノ。
1:47:16	あくまでも僕はノロ 46 ページとかとの比較ですね、いや別に何か検討はしたんだけど影響はない、特に何か変更もないんだったらそれはそれでいいんですけど。
1:47:27	ちょっと今の 32 ページでご説明ありましたけどね 29 ページにありましたの書いてあります。
1:47:35	何かちょっと、
1:47:37	検討はしたんだけど影響がないものと検討して、
1:47:41	影響はないんだけども変更追加。
1:47:45	あるものとか、ちょっとそこは、
1:47:47	わかるような形でやっぱり整理を、
1:47:50	ちゃんとですね。
1:47:51	していただければと思います。
1:47:58	電力タケダでございます 1 月 31 に同じコメントを受けましてですね今のところ 7、7 ページのスライドにですね、今回
1:48:09	やってきた波源波源じゃないごめんなさい。加来に説明した審査会合と新しい知見が反映すべき知見が文献調査の結果、あったかなかったかというのと、結論を変えた変えなかったっていうのをまとめたんですけども、
1:48:26	こちらにその地震起因のコメントとか記載とか、ないものですからその辺を少し修正したいと思います。
1:49:03	ですよ。ですよ、その地質興業ですけど、地震に伴う津波にこういく。
1:49:11	文献調査の更新っていうのは、
1:49:15	あれなんですかね、津波、既往津波の文献調査等、
1:49:20	津波痕跡高の文献調査、
1:49:25	津波堆積物の文献調査、これぐらいしかいかないですっけ。
1:49:31	な。
1:49:32	いや、ごめんなさい、もうもうどストレートにいくと例えばですよ。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:49:37	日本海地震津波調査プロジェクトだとか、そういう系統のやつっていうのは、ここに何も入らないんですよ。
1:49:49	今、いや、今見てるか見てないかちょっと置いといて、
1:49:53	そういう
1:49:57	文献地震に伴うこれ、
1:50:00	既往津波じゃないけれども、こういった断層がありますよとか、例えばこれも聞きたかったんだけど積丹半島の海底地質図が出ましたよとか、
1:50:11	そういうのはどこどこに入っていくんですかね、ここの中では入らないっていいんですかね。
1:50:23	北海道電力の青木です。地震に伴う津波については前かちょっと時期すぐ出てこないんですけど、会合で説明した時に日本海プロジェクトとか、
1:50:35	いろいろ知見踏まえた上で審査会合で説明しております。その中で、同日本海プロジェクトとか、
1:50:42	そういった知見を踏まえてやっていて、前回の会合カラー
1:50:47	そこそれから新しい知見とかって、常に収集しておりますそこから変更がなかったっていうところを、注釈で行っていたところになっております。なのでその中でいうと、今回の 32 ページの上段の、
1:50:59	点線で囲っているところの危険の収集の、
1:51:03	内容が、ダイレクトに地震津波の結果は反映させるかっていうと、そういったところはないのかなというふうに考えております。以上です。
1:51:13	わかりましたあれですか、地震に伴う津波の要するに日本海島縁部の最後の方に会合をやったとき、あのあの時点は、
1:51:23	ちゃんとこうその時点でのコウデータを最新のものを反映できているんだ。
1:51:31	いうことでいいんですかね。
1:51:32	当北海道電力の青木ですと日本海東部の審査の際に、衛藤、令和 4 年 5 月 27 の会合のときの時点の最新の知見もすでに日本海島縁部の審査の中で反映しております、
1:51:45	そこから、今ですと、1 年と半年ぐらい経っているので、それも知見としたら、集めて、影響がないっていうところを重視確認しているところになっております。以上です。
1:52:02	じゃあ差分の残りの部分を今回全部網羅的にやってますよと。
1:52:08	いうことでいいですか。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:52:10	地震に伴う津波では、ちゃんとその部分はちゃんと説明してその残り、残りというか、
1:52:18	はす。網羅的にやってるでいいですか。
1:52:21	これも説明しますよね。
1:52:24	北海道電力の青木です。当差分ってところで、前回の令和4年5月27日から、現在に至るまでの知見ということもチェックしていて、
1:52:37	それが今回の資料の範囲外ではありますがけれども、反映しているということになります。以上です。
1:52:46	くどいようですが令和5年、
1:52:49	令和4年5月27日の会合までのもので、コウ断層関係の知見は全部反映されていると。
1:52:57	で、これまで26年とかから歩更新されていなかったものは今回のこの資料で全部更新されたということで理解しますけどいいですか。
1:53:07	わかりました。
1:53:08	電力の青木です。その地震津波ってところは、前回の会合時でそれ以外の項目ってというのが、古い時代に説明したもので今回、
1:53:18	今のところまで更新したということになると、そういった位置付けです。以上です。
1:53:33	はい、えっとね、33ページで、
1:53:43	こういう主な主な情報収集範囲ということで書かれてるんですけど、こういう学会誌人はもう一通り見たんですよと。
1:53:58	ということですよ。だからこれ例えば学会の発表だけで終わってるようなやつとかはここ入ってない。
1:54:07	江藤電力タケダですよ講習とか人。載ってるものとか地方で講演会やってるものも拾えるものは拾って、
1:54:15	ございますそういう面では鳴原さんの論文書いて実際の鳴原とかも拾ってございます。
1:54:29	だからこれ主な主なここに書いてるのはもう漏らさずにやっていますよと。
1:54:33	プラスアルファがありますよ。
1:54:35	ということですかね。
1:54:38	起こりました。
1:54:47	もう1個1個確認しないですけど、3536っていうのは、
1:54:54	モリですね。
1:54:56	多田丹2013年の
1:55:00	宇佐美他が、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:55:02	更新されているから、
1:55:06	これ反映したようですよね。
1:55:08	これなんか多分僕らね会合でね他のか他の事業者さんに、北海道電力も聞いたかな能登半島の、
1:55:17	地震の話とかもしてて、今現在、この北海道電力としては津波できてないっていう話で、したっけ
1:55:25	1月1日の能登半島沖の地震による津波っていうのは、
1:55:32	はい。
1:55:33	津波はないで、はっきり言っているんですか。
1:55:39	北海道電力竹田でございます。気象庁の発表で、岩内町っていうところで
1:55:49	潮位の上昇が10センチとか、
1:55:52	あったんですけども、構内で一波が来た時刻においては、読めるほどデータが10センチあるかないかぐらい少し上がってるかなぐらいみたいなものはあったんですけども、
1:56:05	それ以降泊で、
1:56:09	サンゴで水位が上がったっていう情報は、
1:56:13	ないですか。
1:56:15	つまり、2013年以降を、何かこう津波らしいものが来そうな地震としては、もう、
1:56:23	この間の1月1日の地震だけですよね。
1:56:26	いいですよ。
1:56:28	なんか、
1:56:30	ちなみにじゃないですけど、コウ。
1:56:33	かい書いとけば2013年以降ももうないんだよっていう話で、
1:56:38	すんなり終わりそうな気がするんですけどね。もちろん文献調査とは違いますけどねこれ。
1:56:45	補足とかでも何か、
1:56:48	補足ないんですねわかりましたない、ないことが確認したかったんです。
1:56:58	で、こっから、こっから
1:57:01	こっから五つ抽出したよと。
1:57:06	こっから五つ抽出したよっていうのが7、なんでこれ、何でこれをいつ抽出したんですしたっけ。
1:57:12	何の抽出なんでしたっけこれ。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:57:19	特に泊発電所への敷地への影響が大きかったと考えられる既往津波を五つこれ抽出したんですよね。
1:57:28	これ何でい。
1:57:30	何の抽出だったんですかこれは。
1:57:52	北海道電力タケダでございますちょっと、
1:57:56	学会どうなんかを読みますと、敷地に対して過去できるだけさかのぼって、敷地に対して大きな影響をした、イベント等を広範囲で廣井ということでございます。
1:58:08	それがこの五つ、いや、五つですね。
1:58:11	わかりました。
1:58:12	それは何、何でこれになるんですか。衛藤。
1:58:16	何だっけ。
1:58:18	痕跡高さがあるやつはわかりますよね。三つありますよと。
1:58:23	その他の二つは、どうして選ばれてるんです。
1:58:38	北海道電力の林です。
1:58:41	痕跡高がないものにつきましても、こちらの表のうち、まず、
1:58:47	波源域の情報ですね波源域が泊発電所に近いかどうかという視点が一つと、もう一つは、津波規模という、
1:58:58	項目がありまして、ここで細かな痕跡高がわからないものについても、文献上津波の規模という形で、
1:59:08	表現されているものでございますので津波の規模と波源域の泊発電所からの距離というこの二つの視点で、影響が大きいものを、5件を選んだものになります。以上です。
1:59:21	わかりました。
1:59:23	そっかこれはじゃあれか。
1:59:27	もう、北海道南、北海道の日本海側っていうのは全部、
1:59:34	選ばれてるのか。
1:59:36	わかりました。
1:59:38	多分そうなんですネ。
1:59:41	はい。その中から一番影響が大きいものをさらに抽出して、
1:59:46	今度の抽出っていうのは再現解析に使う。
1:59:50	波源は、
1:59:52	津波を抽出したってことでいいですか。
1:59:57	2回抽出してますよね。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:00:05	北海道電力のハヤシF、おっしゃる通りでして、まずはその私立を確認した中で、影響が大きいもの 5 件をピックアップした上でさらにその中から最も敷地への影響が大きかったものを、
2:00:18	津波痕跡高という具体的な数字を用いて、1 件抽出しましたと、その 1 件 2 を用いて再現性解析をしましたというそういった流れになっております。
2:00:30	はい。だから、あれですね再現性解析をするために、
2:00:35	一番影響が大きいものを抽出したということでもいいんですねこの子。
2:00:41	北海道電力は石津おっしゃる通りでございますありました。
2:00:45	はい。
2:00:47	それ津波堆積物の話になっていくのかなその次は、
2:00:53	津波痕跡高、
2:00:55	それですね僕はさっきちょっと回りくどく言ったと思うんですけど、
2:01:00	何か
2:01:03	文献によってアノか、カワカミさんっていう方が、
2:01:07	これで何か地質学会の発表かなんかで、
2:01:12	堀株川の旧加工に近接する場所では何かアノ田井セキ津波堆積物、
2:01:18	高橋小俣は、
2:01:20	津波起源の可能性があるみたいなことを発表されているのがあったんですけど、この辺は、
2:01:27	見ていますか。
2:01:30	の方につきましては 2015 年の北海道の同窓県の分析の中に、記載が、そのような記載はあるんですけども、その
2:01:41	佃さん。
2:01:42	ちょっと待ってください。
2:01:58	今、
2:01:59	読んで理解してる範囲では、明らかにその海成のものであるというところが読めないってことを記載していたと。
2:02:09	ということでございます。
2:02:15	と、ちょっと待ってください。
2:02:20	いいですけどこの紙、審査の、この審査資料の中にはそこは全く今触れてなくて、なぜかというそういう判断を、
2:02:30	してるから、
2:02:32	見たんですけども、これは資料か、資料の中に入れる必要ないっていうふうに判断したってことですね。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:02:40	本セキ金堆積物、
2:02:56	2015 のカワカミの中では入ってないんですけれども 2013 年に同じカワカミさんが委託を受けて、やってる 2013 北海道 2013 というのがあってそちらの方では、
2:03:10	コアを抜いて
2:03:13	堀株の流域についても調査をしていて、
2:03:17	しかしながらその中でも、
2:03:23	津波危険であったか、やっぱり一時津波危険であったか判断できないとしているというような記載がございまして、
2:03:32	資料の 3 の中には一部触れてるところもあるんですけれども、はい。資料 3-13、ごめんなさい、資料 2 の 13 ページ。
2:03:56	ではですね 2013 歩北海道 2013 で行われた
2:04:02	阿武スタッフそうっちゅうかその辺概要を記載してまして、それに対する記載は資料 3 の方にも入れてございますけれども堀株周辺で明確に津波堆積物っていうところは、
2:04:16	確認できていないという、
2:04:20	うん。
2:04:23	はい。
2:04:27	これね。
2:04:28	ちょっと話が変わるかもしれないですけど北海道電力としては、
2:04:33	何て言うのかな、資料 2 の方の 15 ページとかを見てたら、
2:04:44	明瞭な津波堆積物が確認。
2:04:49	できなかった。
2:04:51	ということで、
2:04:52	ちょっとこう、
2:04:54	津波堆積物かもしれないものは、あるんだけど、
2:04:59	明瞭な津波堆積物は確認できなかったから、それ、ないものとして扱ってるんですよ。その明瞭なものは確認できなかったっていうのは、
2:05:09	この下の評価で、
2:05:12	津波起源を示すような明瞭な証拠は認められないっていうことで、小コガナイトウ、津波堆積物、
2:05:20	いやイベント堆積物として、
2:05:23	扱わないっていうそういう考えがもともとあるってことでいいんですかね。
2:05:50	一応ですね資料 3 の方の、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:05:54	68 ページからその当時、26 年にあった説明記載してございますけれども、
2:05:59	津波起源を、
2:06:02	を示す明瞭な証拠が認められないという記載でご説明して、
2:06:09	ございます。81 が結果として弊社が行いました津波堆積物の調査の結果を記載しているわけですがけれども、
2:06:34	はい、えっと、
2:06:37	わかりましたの。
2:06:39	今の資料上は、明瞭な何か証拠があったときに初めて、これは、
2:06:46	津波堆積物になるし、
2:06:48	そうじゃなければもうイベント堆積物にも、
2:06:53	ならないのかな。広報のイベント堆積物と津波堆積物の関係からいうとどう、どうなるんですか。
2:07:01	津波堆積物だけを探しに行つて、
2:07:04	イベント堆積物が推定される地層のうちゅうのはあってもいいんだよと、そう、そういう話なんですかね。
2:07:13	なんかねいや、僕どうなったら、北海道電力としては、津波堆積物として扱うのかって言うのと、もう一つは、どうなったら、イベント堆積物であるという、
2:07:26	コウ扱いになるのかっていうのが、
2:07:29	ちょっとわからなくて聞いているというところです。
2:07:45	北海道電力堤です。
2:07:47	当社が行った調査におきましても、ボーリング調査等を行っております、
2:07:53	資料 3-69 ページにですね、
2:07:59	概要を記載してございますけども、
2:08:02	まずイベント堆積物としては確認しております。
2:08:07	69 ページの二つ目の丸に記載しておりますけども、川上ほか 2015 でイベント堆積物の定義ってのありまして、
2:08:15	これらに該当するものについてはイベント堆積物として当社としても確認しているという状況です。
2:08:21	これでこれは確認されたイベント堆積物につきまして、
2:08:26	60、
2:08:28	ソネ 68、8 ページ。
2:08:31	2 ですね。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:08:32	ええ。
2:08:34	C-14の現代測定法ですとか、珪藻分析を行ったという記載がございまして、この分析を行った結果、津波以来ではないというふうに判断してございまして
2:08:45	津波堆積物としては使わないという整理してございます。
2:08:49	以上です。
2:08:53	そうならいいですか、イベント堆積物になったんですかこの。
2:08:59	68ページにあるやつは、
2:09:10	アノ。
2:09:47	ごめんなさい。多分、ちょっと今、古い資料だったりするので、すぐに答えられないのかもしれない、事実確認ができないのかもしれないんですけど、ちょっとその辺の考え方を、
2:09:59	整理してもらった上で、会合で、これは津波堆積物ではない或いはイベント堆積物ではないっていうのであれば、
2:10:09	その証拠が十分なのか。
2:10:12	ていや或いは何かこの書き方を見てたら、
2:10:16	津波堆積物かもしれないけれども、
2:10:19	明瞭じゃないから拾わないんだっていうふうな書き方にも見えて、
2:10:24	どうなんだろうなって思って、そういう別の質問をしているという次第です。
2:10:30	ちなみに、
2:10:31	これが、
2:10:34	イベント堆積物或いは津波堆積物だとして扱うんだったら、
2:10:40	す、一番高いところ何メートルになるんですか。
2:11:07	一番高いところだと、
2:11:10	15ページこれ何の中で、
2:11:23	みたいな、一番高いところで、えっと、
2:11:26	資料2-15で、
2:11:29	そのコウ、
2:11:31	イベント堆積物で何がしか、その年代分析計装も分析を行った。
2:11:38	資料の中で最も高いところというところで行きますと、
2:11:43	坑口の標高等、深度を、坑口の標高から引きまして、しも梨野舞納一ー1ってところが3メートル程度で、
2:11:54	1名一番ウエダと1メートルと程度下がったところということで概ね2メートル程度と。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:12:00	はい。評価できると思いますけれども、この辺きちっと回答できるようにして参ります基本的には、
2:12:08	イベント堆積物の中で珪藻もであるとか、あと有効中までではないけれども、そういったものを拾って年代分析をしてるんですけれども、
2:12:19	それで、海成かお店じゃないかという判断をして
2:12:23	津波、
2:12:25	津波堆積物、
2:12:27	津波堆積物じゃないかって言う判断をしてるんですけれどもその辺もきちっと事実関係を整理してお答えできるようにしておきます。
2:12:36	はい。
2:12:37	リヤムナイのところしもリヤムナイっていうんですか。
2:12:42	一井は、2メートルのところにあると。あとは層厚として一番厚いのはどれになりますかこのイベント堆積物が推定される地層として、
2:12:52	一番層厚が厚いのはどれですか。
2:13:13	北海道電力堤です。すいません、ちょっと測定、即答ができないんですけれども
2:13:18	データとしましては資料3のですね70ページ以降に
2:13:23	実際にボーリングしたデータの
2:13:25	柱状図、記載してございます。イベント堆積物と推定されたものについてもですね、記載してございましてこちらの層厚を確認すれば確認でできるかと思っております。
2:13:49	そっか70ページだけを見ればいいんですかこれは。
2:13:55	さっきのリヤムナイ1、
2:13:58	もう、
2:14:01	どんどんあるのか。
2:14:06	だから、
2:16:37	ちょっとねイベント堆積物っていうのは
2:16:41	我々もよく見ますけどまずは考えを、
2:16:45	しっかり整理してもらえたらなと思います。
2:17:00	ちょっとまた何か疑問に思って、すみません思いつきで、
2:17:05	7ページで既大津波の文献調査っていうのがあるんですけれども、あれですか、
2:17:13	たくさん、
2:17:14	日本海で選んだのがずらずらっと表があったんですけどそれはこっちには来ないんです。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:17:22	本編に入らないですか。
2:17:25	五つ選びましたとかそのあと1個選びましたとかいう、
2:17:29	その前の公表っていうのはこれつかないんですか。
2:17:32	本編で。
2:17:37	北海道電力の林です。資料3番の26スライド目に収録しております。
2:17:44	補足ですか。
2:17:47	補足だから残るんですよってことですか。
2:17:54	方。
2:17:57	じゃあね本店はこの
2:18:01	赤い程度ね、書いてるね資料3-2-1に、
2:18:05	3参照って行って、わかりました。はい。
2:18:18	あと根井。
2:18:21	ちょっと10ページの津波堆積物の調査で、
2:18:28	古平、古平町から松前町及び奥尻島、
2:18:37	を対象にしてるんってことなんですけれども。
2:18:46	これは何でなんでしたっけ津波痕跡高を、
2:18:50	踏まえて何って書いてるんだけど、
2:18:53	なんで津波痕跡高の整理結果が、
2:18:58	から、
2:19:00	違うか。
2:19:04	すいませんシンプルに聞きます古平町から松前町の範囲を、
2:19:11	見ますって。
2:19:12	津波堆積物とかですね。
2:19:15	なんて僕らこう見ていくと、他のサイトとか考えると、
2:19:20	石狩へやあだとか、もっとう、南の方データ、
2:19:24	取ってましたけどもうちょっと広範囲で、
2:19:29	違うか。松前村っていうのは、
2:19:32	あれかゴシマ半島まで入ってるのか。
2:19:36	北川ですかね。何で北川この古平までにしたんですか。
2:19:56	北海道電力の堤です。
2:19:58	資料2の8ページの方に津波の痕跡高として記載してございますけども、まず、津波痕跡高については
2:20:06	北海道西岸ということで、稚内から松山で広く注意して記載してございます。そのうち津波痕跡高が高かった。
2:20:17	範囲として敷地周辺から外れるんですけども北海道の南西。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:20:23	側、こちらを含めて敷地周辺に、この北海道の南側を含めた形で、
2:20:29	堆積物の調査をしたということでございます。
2:20:36	ちょっと
2:20:39	気力タカイと北川はもうここでいって理由は何なんですか。
2:20:46	はい、北海道電力堤です。
2:20:48	北川については津波痕跡高としてもあまり高いものが出ていなかったということと、
2:20:53	あとは実際に北海道があった調査とかでもですね北川の方については、堆積物がほぼ見つかっていないという方、ちょっとすみません使っていないと。
2:21:03	ということで、堆積物がアノし、確認されている、南側の方を重点的に確認したということでございます。
2:21:43	うん。
2:21:44	後すいません飛び飛びになってね。
2:21:46	あとね災害性解析っていうのを、
2:21:51	何だ、資料1にあるんですけど、再現性解析、これねえ。
2:21:57	わかったんですけど。
2:22:00	44 ページに、
2:22:02	あるのわかったんですけども、
2:22:04	これって僕最初この絵を見たときに、
2:22:08	すごい狭い範囲で検討してるのかなって思ったんだけど、実はこの値っていうのは全体っていうので、
2:22:17	もっと広い範囲で再現性を確認してんですよね。
2:22:26	資料1の44 ページです。
2:22:34	はい。北海道電力の堤です。資料1の44 ページには、おっしゃる通りで
2:22:42	範囲としては1例の一部分のものを記載してございまして、全体としましては資料2の22 ページ、
2:22:50	20 から 24 ページまで、
2:22:57	2、すべての
2:22:59	範囲とで、プロットを記載してございます。うん。
2:23:03	でね 44 ページのこういったのを書くときに、この値をコウ、
2:23:08	値とこの表が一緒のコウところに書かれておきながら全体なので、
2:23:15	ここじゃないんですよねこの辺りって、何かそういう作り方はやめて欲しいなって思うのが1点。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:23:22	で、
2:23:23	阿藤。
2:23:26	文章で、概ね経営カッパ-をね、概ね満足するって書いてるんですけど、これ、概ねなんですどっか超えたりするんですか。
2:23:37	もう、ごめんなさい僕あんまりちゃんと確認せずに聞いてます。
2:23:55	該当電力の堤です。
2:23:58	はい。
2:24:00	資料 2 の先ほど申しました 22 ページから 24 ページですけども、全体として見る限りでは再現性の
2:24:10	基準を満足しております。一方で部分的に見ますと、
2:24:16	と、
2:24:17	若干ですね、お薬の方から、
2:24:23	北海道電力の林です。例えば、資料 2 の 22 スライド目の、右側の方に載せてある表の、北海道南西部西岸というところに、
2:24:35	切り取った場合におきましては、例えば、Kの値が 0.93 というところで、
2:24:41	指標である 0.95 よりも大きいというところよりも、若干外れた値になっているようになっております。わかりました。はい。ちょっと区間区切るとそういったところが一番あるんですけども、全体を押しなべてみると、満足しているといった状況でございます。
2:26:01	これはあれですか区間としては、南西部西岸と奥尻島っていう二つに分かれてて、それを合わせたのが全体っていうことでいいですか。
2:26:14	北海道電力の堤です。ご認識の通りです。
2:26:51	じゃやっぱり概ね満足ということですね。
2:26:54	44 ページでね。
2:26:58	44 ページの資料 1 で、
2:27:01	これ何か
2:27:03	ハウタっていうんですかね、この辺りにコウ本、
2:27:09	計算だから離れた 2 点、こうありますよね。これって多分、今回、
2:27:15	更新後、
2:27:18	更新後っていうのは東北大学大学原子炉規制庁 2014 の更新後っていうやつがこれに当たるんですかね。
2:27:27	まずそこ。
2:27:32	北海道電力のハヤシSご認識の通りでして資料 1 の 39 スライド目に示している、痕跡高のグラフのうち、上に大きく飛び出してる赤い点二つが、こちらの 2 点になります。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:27:47	だからあれですよね今回
2:27:49	データを更新してみて、ここの部分 44 ページのこの本と離れてる部分は新しくこの出て出てきちゃったということなんですよ。
2:27:59	これ、
2:28:00	大分ここだけ。
2:28:02	外れてるっていうのは、
2:28:04	何か考えがあったら今聞きますけど、何か理由あるんです、このはずれてるの。
2:28:10	地形的なもんだとか、
2:28:17	北海道電力の林です。ちょっと今手元に越智文書を示しできる資料等はないんですけども、実際の地形としては地形のような形になっていて、部分的に、
2:28:30	津波のAID痕跡高が高く上がった場所というふうに整理しております。以上です。
2:28:54	原子力規制庁の山下です。今のお話のところで、まずちょっとこの再現解析の条件とかが、どっかに書いてあるのかもしれないんですけどよくわからなかったということと、今
2:29:05	今、なんでしよう説明があったところの、
2:29:09	何か左腕みたいなどころってかいうお話だと思うんですが、その情報みたいなのが、何でしょうね。
2:29:17	この痕跡高を、これ、津波痕跡データベースから引っ張ってると思うんですけども、その中で、データベースの中でどのように、その地点の情報が使われてるのかっていうのを、
2:29:32	確認し、した方がいいんじゃないかなと思いました。つまり、今、私たちがこの書面上で見る情報ってのはこの信頼度ABC、この情報しかなくて、
2:29:42	その詳細な情報は何もわからないですよ。
2:29:45	だからそこが確認した上で、何が原因でこういうふうになってるのかと、例えば、地点情報とかも、代表地点とかでされてる場合とかもあり、ありますし、
2:29:59	その辺の情報も踏まえて、
2:30:03	考えられた方がいいんじゃないかなというふうに思いました。すいませんちょっとコメントみたいになってしまったんですが、そのあたりの情報を確認されてるようでしたら教えてください。
2:30:20	回動電力の林です。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:30:22	まず、再現性解析の条件等につきましては、現状の資料でいきますと資料 2 の 21 スライド目 2、
2:30:33	等を記載しておりました。
2:30:35	一方で特異な点の、についての考察については、一切触れられておりませんのと、津波痕跡データベースでのその記載ぶりについても、
2:30:48	今記載、できておりませんので、先ほどの特異点について考察したものを資料に反映したいと考えております。以上です。
2:30:59	ありがとうございます。
2:31:03	あ、すいません規制庁の道口です。
2:31:06	すいません、痕跡高もデータベースなんですけれども、
2:31:12	いろいろ情報を抽出して
2:31:15	登録してるところはあるんですけども、まずその今 2014 っていうふうになっているんですが、そのあともですねちょっとその域の見直しだったりとか、そういうことも行っているところはあるのですが、
2:31:27	この 2010、ちょっと北海道の今回の対象地域で変わってるかどうかまだちょっとすいませんわからないんですけども、
2:31:35	最近も調べたけれども 2014 から変わってないという理解ですか。
2:31:42	北海道電力の林です。衛藤。
2:31:45	午後に、ご指摘の通り 2014 年以降も、データ更新されていることは現行でも把握しております、我々がターゲットにしている北海道、西岸のエリアにおきましてはデータの更新がないことを確認しております。以上です。
2:32:00	わかりましたありがとうございます。あと位置情報とかもちょっと明確じゃない場合はちょっと代表地点に置いたりとかもしているので、ちょっと
2:32:10	我々もできるだけ見直したりとかしてできるだけちゃんとしたデータを入れようとは、努力はしているんですけども、改めてと利用するときにはちょっとデータベースにも書かせていただいているんですけど、利用者がちゃんと原著論文とか、そういうところにまでたどって、
2:32:25	確認して欲しいということはちょっと書かせていただいているので、使うデータに関しましてはそういう確認をしていただいた方がいいのかなというふうに思います。
2:32:34	はい。
2:32:36	北海道電力のハヤシsアノご指摘ありがとうございます。実際に今回津波痕跡高のデータを更新した際にも、もともとプロットされていたデータの、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:32:46	市が変更になっているもの等も数点あって、そういったものがあるということはこちらでも認識しておりますので、その点留意してこれからも情報を確認していきたいと思います。以上です。
2:32:59	すいませんたびたびすいません原子力規制庁の山下です。今さっきデータベースの確認日っていうのがそこ更新されたところ、トダとかいうところも確認。
2:33:09	おっしゃったと思うんですけども、いわゆるこういう公開データとかを引用する際には、アクセス日みたいなのを、
2:33:16	確認日みたいなのを、引用株、
2:33:20	なんでしよう明記する、した方が誤解を招かないので、はい。
2:33:26	そのようにしていただければありがたいです。幸いです。はい。以上です。
2:33:34	北海道電力のハヤシF、かしこまりました。アクセス日といった視点で情報の時期がわかるように資料を見直したいと思います。以上です。
2:34:51	すいません改めて確認して、間違っているようであれば訂正させていただきたいと思います。北海道
2:34:58	似たような地名で呼ぶところ何ヶ所かありますので、きちっと確認して修正があれば修正したいと思います。
2:35:13	あとね、54 ページなんですけれども、
2:35:19	資料 1 年、
2:35:22	これやっぱり上で書いてること等、下で書いてることって違いますよね。この日立、下図に示す検討を実施して、それを審査会合において説明していると言いつつ、
2:35:35	地方自治体モデルは、今回、
2:35:38	差分があるんですよね。ここ、これまで説明していないものがポンと出てくるんですよねってことでいいんですよね。他のものやってたんですか。
2:35:50	北海道電力の林です。ご指摘の通り、地方自治体についての説明は今回が初めてとなりますので、リード文について誤解のないように修正したいと思います。
2:36:02	はい。
2:36:03	これあれなんですかね当時は。
2:36:06	当時はまあ必要ないって思ってたけれども、
2:36:11	渡島当時は、本、
2:36:14	他もやってるか。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:36:15	衛藤北海道電力の青木です。等々Gからそういった地方自治体の評価 っていうのを資料として準備していたんですけど、審査の進捗の関係で ここの2は、地方自治体のところ説明、会合として説明してなかったとい うところが実態でして、
2:36:30	会合として説明するのが、今回54ページ書いてるところで新規の案件 というような位置付けになっております。なので、正しく言うと、新しい知 見があったかないかっていうよりは、
2:36:43	それまで審議されてなかったというところが正しいところかなと考えてお ります。以上です。
2:36:50	はい、わかりました。
2:37:02	後は58ページで、宗田58ページでね。
2:37:13	等を
2:37:15	わかるんですけども秋田県と北海道選びますっていう話なんですけ れども、多分他のサイトとカネコのマグニチュードだけではなくって、
2:37:26	滑り量だとか、そういうことも何か説明しながら、
2:37:30	書いてると思うんでその辺の所、データも追加してください。
2:37:38	何かこの中にずば抜けて大きな滑り量がナカなければ何かいいような 気がするんですけど。
2:37:46	北海道電力の青木です。他サイトのちょっと、説明の仕方を踏まえた 上で、そういった必要な情報だとか、選定の仕方っていうところ。
2:37:55	記載の充実を図っていきたいと考えております以上です。
2:38:04	あと、これマイク使わないですけど、運用検討会モデルっていうのも、
2:38:09	多分、
2:38:10	各県ごとに影響が大きい。
2:38:38	何点。
2:38:48	これ以外にもある。
2:38:55	大井が小さいからいい。
2:39:07	シマの、
2:39:26	ちょっと規制庁のヤマサキです。ちょっと論点がちょっと先に、ちょっと戻 ってしまうんですけどもちょっと再現性が悪い部分に、
2:39:34	ついでですけども、そのシミュレーションの方の設定で海底地形とか の、地形の特徴をちゃんと反映したようなメッシュサイズになってるのか とかっていうところをちょっと確認させていただきたいと。
2:39:57	北海道電力のハヤシF、藤。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:40:00	海底地形等のS、モデルの組み方につきましては資料3のA3スライド名のところから計算条件として示したものになっております。
2:40:16	すいません資料3の何ページでしたっけ。
2:40:18	3、3ページですね資料3の3ページのところで、
2:40:27	計算格子間隔等お示しております。これは十分、
2:40:33	うまく合わないところの地域の地形の特徴をきちんと反映できるような大きさになってるのかっていう確認なんですけども、
2:40:51	北海道電力の林です。実際、敷地に、式カラーAの距離に応じて、
2:41:01	遠いところの計算格子間隔が大きく敷地に近いほど、小さくというような考えで条件を設定しておりますので、その再現性が悪い部分の説明として、
2:41:12	その部分の何か地形がうまく反映されてないとかっていうのが一つの説明になるんじゃないかという。
2:41:20	をもうちょっと。はい。わかりました。ありがとうございますおっしゃる通りでして、先ほど齋木が悪かったのは奥尻島の方の、
2:41:28	北海道の南部の方でのデータになりますので、計算格子間隔が大きいことと、地形の条件が相まって、先ほどのような結果になっていると考えています。わかりました。ありがとうございます。
2:41:48	ですね。
2:41:51	資料1の、
2:41:53	この49ページの、
2:41:55	これ前のヒアリングでも確認したんですけど、
2:41:59	何ハラです。何か、森木ほかの
2:42:04	話がここで説明されてて、
2:42:10	算出条件等の知見を記述していないため、継続して注視していきますよっていうのが49ページにあるんですよ。
2:42:18	それに対して、これ、資料3の133ページでちょっと言ってることが、
2:42:29	言ってますかね。
2:42:32	えっとね、133ページはアスタリスクで、
2:42:41	森木ほかを引用したん何とかハラでは鷺ハラダ。
2:42:46	鳴原柏原では、
2:42:49	何とかによると、は帝都Rの計算式に基づき計算した結果、10メートル町の宇津氏ているものの、当社が想定している陸上地すべりに伴う津波と比較し、
2:43:02	影響は小さいって言ってるんですけど。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:43:06	これ、何をやって、
2:43:08	影響は小さいって言ってるんです。
2:43:13	確認してるんだったら 49 ページにもそれが何か入りそうな気もするんだけれども、これ何かちょっと言ってることが違いそうで、さらにその 133 ページで言ってることっていうのは、
2:43:25	何をやったん。
2:43:27	どこ見たらわかるんですかっていう。
2:43:29	その 2 点なんですけど。
2:43:35	133 の * イシタというのは、ここに書い
2:43:41	ている、ちょっと 133 自体がまず森木自体を、について記載した。
2:43:47	ものを、を中心に記載してるんですけれども、※のところについてます。陸上地すべり買わしらというのは頭を実際計算するときに、
2:43:57	何でしょう波源で、川シラガ地すべりとドンと落ちたときに一番初め上がる呉津波高さが、波源域で 60、約 64 メートル程度、60 メートル超であることに比べて、
2:44:11	鳴原のこの横尾とか見ていきますと、奥尻下にある黄色い部分でその大きい波源のところ、ここら辺に集中していて小小浦編をWattsで計算すると 10 メートル越えであるというような記載が、
2:44:27	ございますのでそれに比べると遠くて小さいということで、影響がないという記載を今 133 にさせていただいてるんですけど、この記載を、
2:44:37	ここで 49 世良であれば、そのモリキノシタに記載するとかして、表現を合わせて参りたいと思います。
2:45:26	終点ですか根拠。
2:45:30	はい。
2:45:32	津波振幅幅が波源金月なはい。根拠とともに、文章をわかるように表現したいと思います。
2:45:54	川白の初期水位と、
2:45:58	この 10、10 メーターの振幅っていうのを、
2:46:01	比較したと。で、さらには、
2:46:04	それは泊の発電所からはそう変わらないですかね距離は。それとも、明らかに初期水位が全然違うから、もう、
2:46:13	影響は小さいって言ってるんですけど、両方いえるんですか。
2:46:20	川白が概ね 60 から 80 キロメートルで、男性を聞いてね 100 キロを超えるところでございますのでそれらを含めて、何と何くらべてるかっていうのを、わかるように表現したいと思います。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:46:44	すいません。規制庁の道口です。今のこの 49 ページでこの乾イシイハラ 2023 は、多分JPBUのアブストラクトですかね、なんか。
2:46:55	参考文献見るとそうだったと思うんですけど。
2:46:59	ほぼ同様の報告なんですけど、海岸工学講演会で、ちょっとそれも、
2:47:05	アブストラクト扱いなんですけど、
2:47:08	JPの常盤図とかが載ってなかったんですが、
2:47:12	海岸工学講演会のAppStoreの方には、ちょっと解像度悪いかもしれないんですけど、どの場所で、その振幅っていうかその津波規模がどのくらいかみたいな図も載ってますので、
2:47:24	それも 1 回確認された方がいいんじゃないかなというふうに思います。
2:47:29	ご指摘ありがとうございます海洋工学公園、赤井は、講演会の、
2:47:38	Cハラ、乾伊井。
2:47:42	すいません。はい。そちらもきちっと拾って確認して、表現を適切化したいと思います。
2:48:07	すいません規制庁の仲なんですけど、すいません私がちょっとこれ、
2:48:12	評議資料の表現としてあんまりよろしくないなと思ったのは、今 49 ページの方、
2:48:19	49 ページの方でさっき青木さん説明したんだけど、
2:48:24	算出条件等の知見は記述されていないので、それはもう継続して注視していただけていいんですよってこれ言い切るのは、ちょっと何か乱暴かなっていう
2:48:35	だから、
2:48:37	やっぱり、今、ちょっとアノ道口さんの方の話ありましたけどさ、参照できるのはズーッと変わるんであれば、そういったところと、実実際はそういう海域のところもう地形判読してるんであれば、
2:48:51	うんそこんところは、みずから判読した結果と比較してどうかってことも、
2:48:57	少し考察もできるだろうし、
2:49:00	あと規模の話もされてるんであればさっき比較コウなんかしてます、距離と。
2:49:05	その初期水位の関係で何か考察を加えているんであればそういうことも含めて、
2:49:11	ちゃんと説明した上で現状どういう知見をもとにどういうふうな、
2:49:16	考察をしてどういう判断をしているのかということをはっきりとした方が、
2:49:21	いいんじゃないかな。
2:49:23	と思います。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:49:26	これ、ガチガチに指定しようと言ってるわけじゃなくて、今、どういう知見をもとにどういう判断をしたのかを明らかにしといてくださいというだけ。
2:49:37	よくタケダでございます今 49 ページ及び 133 ページで、ちょっと論拠となるところが少し、
2:49:44	曖昧な記載になってますので、きちっと何と何をどこをリファーして、何と判断してるかというのをきちっと記載したいと思います。
2:50:58	すいません資料 2、資料 3 のところを少し、記載が、
2:51:04	適正化できてないようですので 49 すらにある、きちっとした名称に合わせて、
2:51:11	記載を適切化したいと思います。
2:55:22	あ、規制庁側の確認は、もうこれぐらいにしましても時間もオーバーしているので、北海道電力から何かありますか。
2:55:31	特になければ、これでヒアリングを終わります。どうもお疲れ様でした。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
 発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。